

項目	実施内容	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月以降			備考
				14	21	28	4	11	18	2	9	16	2	9	16	2	9	16	2	9	16	2	9	16				
原子炉建屋内の環境改善	原子炉建屋内の環境改善	1号機 (実績) ○建屋内環境改善(継続) (予定) ○建屋内環境改善(継続)	建屋内環境改善 2階線量低減に向けた3階床面穿孔																							建屋内環境改善 ・2階線量低減の準備作業のうち3階床面穿孔 '20/7/20~8/31 R/F2階の線量低減に向けた準備作業のうち、3階南側エリアの床面穿孔を実施。 ・2階線量低減の準備作業・調査 '20/9/2~9/9、 '20/10/7~10/9 ・2階線量低減の準備作業のうち3階床面穿孔 '21/3/12~4/9、6月~8月予定		
		(実績) なし (予定) なし																										
		(実績) ○建屋内環境改善(継続) (予定) ○建屋内環境改善(継続)	建屋内環境改善 北西エリア機器撤去																									建屋内環境改善 ・線量調査 '20/2/19~5/22 原子炉建屋1階の線量調査・線源調査の実施。 ・準備作業 '20/11/17~'20/12/13 北西エリア機器撤去 '20/12/14~'21/3/22 R/F1階北西エリアの線源となっている制御盤地の撤去。 ・北西エリア機器撤去および除染 '20/7月~'21/12月予定
格納容器内水循環システムの構築	格納容器内水循環システムの構築	1号機 (実績) なし (予定) なし																										
		2号機 (実績) なし (予定) なし																										
		3号機 (実績) なし (予定) ○原子炉格納容器水位低下(新規)																									3号機原子炉格納容器内取水設備設置に係る実施計画変更申請('21/2/1)	
燃料デブリ取り出し準備	燃料デブリ取り出し準備	共通 (実績) ○【研究開発】格納容器内部詳細調査技術の開発(継続) ○【研究開発】圧力容器内部調査技術の開発(継続) ○燃料デブリ取出設備 概念検討(継続) (予定) ○【研究開発】格納容器内部詳細調査技術の開発(継続) ○【研究開発】圧力容器内部調査技術の開発(継続) ○燃料デブリ取出設備 概念検討(継続)	【研究開発】PCV内部詳細調査技術の開発 PCVベスタル内(CRD下部、プラットフォーム上、ベスタル地下階)調査技術の開発 【研究開発】RPV内部調査技術の開発 穴あけ技術・調査技術の開発 試験的取り出し技術の開発 燃料デブリ取出設備 概念検討																							(継続実施) (継続実施) (継続実施) (継続実施)		
		1号機 (実績) ○原子炉格納容器内部調査(継続) (予定) ○原子炉格納容器内部調査(継続) ○1/2号機SGTS配管撤去(新規)	PCV内部調査 PCV内部調査装置投入に向けた作業																								PCV内部調査に係る実施計画変更申請('18/7/25) 一補正申請('19/1/18) 一認可('19/3/1) 【生業工程】 ・PCV内部調査装置投入に向けた作業'19/4/8~	
		2号機 (実績) ○原子炉格納容器内部調査(継続) (予定) ○原子炉格納容器内部調査(継続)	PCV内部調査 PCV内部調査装置投入に向けた作業																								PCV内部調査に係る実施計画変更申請('18/7/25) 一補正申請('20/9/9) 一認可('21/2/4) (2022年内完了予定) ・1号機PCV内作業時のダスト飛散事象を踏まえて、2号機においてもダスト低減対策を検討中。2号機PCV内部調査は2022年内開始を目指す試験的取り出しと合わせて実施すること検討中。 ・PCV内部調査装置投入に向けた作業'20/10/20~ ・X-6ベネ内堆積物調査(接触調査: '20/10/28、3Dスキャン調査: '20/10/30) ・常設監視計器取外し'20/11/10~	
		3号機 (実績) ○3号機南側地上ガレキ撤去(継続) (予定) ○3号機南側地上ガレキ撤去(継続)	3号機南側地上ガレキ撤去																								(2022年3月完了予定)	

燃料デブリ取り出し準備 スケジュール

項目名	活り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月以降			備考		
				14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22			
燃料デブリ取り出し準備	R/V/PCV健全性維持	圧力容器/格納容器の健全性維持	(実 績) ○腐食抑制対策 ・窒素ハブリングによる原子炉冷却水中の溶存酸素低減実施 (継続)																								検討・設計 現場作業			
			(予 定) ○腐食抑制対策 ・窒素ハブリングによる原子炉冷却水中の溶存酸素低減実施 (継続)																											(継続実施)
			腐食抑制対策 (窒素ハブリングによる原子炉冷却水中の溶存酸素低減)																											
	炉心状況把握	炉心状況把握	(実 績) ○事故関連factデータベースの更新 (継続) ○炉内・格納容器内の状態に関する推定の更新 (継続)																								検討・設計 現場作業			
			(予 定) ○事故関連factデータベースの更新 (継続) ○炉内・格納容器内の状態に関する推定の更新 (継続)																											(継続実施)
			事故関連factデータベースの更新																											(継続実施)
●燃料デブリの処理・処分方法の決定に向けた取り組み -燃料デブリ取り出し開始後に、燃料デブリの性状の分析等を進める。	取出後の燃料デブリ性状把握	燃料デブリ性状把握	(実 績) ○【研究開発】燃料デブリ性状把握のための分析・推定技術の開発 ・燃料デブリ性状の分析に必要な技術開発等 (継続) ・燃料デブリ微粒子挙動の推定技術の開発 (生成挙動、気中・水中移行特性) (継続)																								検討・設計 現場作業			
			(予 定) ○【研究開発】燃料デブリ性状把握のための分析・推定技術の開発 ・燃料デブリ性状の分析に必要な技術開発等 (継続) ・燃料デブリ微粒子挙動の推定技術の開発 (生成挙動) (継続)																											(継続実施)
			【研究開発】燃料デブリ性状把握のための分析・推定技術の開発 ・燃料デブリ性状の分析に必要な技術開発等																											(継続実施) =気中・水中移行試験については2021年3月末で終了。生成挙動は継続実施。
●段階的な取り出し規模の拡大 (2号機) -段階的な取り出し規模の拡大に向け、研究開発とその成果を現場適用するためのエンジニアリングを進め、試験的取り出しを通じて得られる知見等も踏まえ、燃料デブリ取出設備・安全システム (閉じ込め、冷却維持、臨界管理等) ・燃料デブリ一時保管設備・取出設備のメンテナンス設備の設計・製作・設置を進める。 -2号機の原子炉圧力容器 (RPV) 内部調査の検討を進める。	燃料デブリ臨界管理技術の開発	燃料デブリ臨界管理技術の開発	(実 績) ○【研究開発】臨界管理方法の確立に関する技術開発 ・未臨界度測定・臨界近接監視のための技術開発 (継続) ・臨界防止技術の開発 (継続)																								検討・設計 現場作業			
			(予 定) ○【研究開発】臨界管理方法の確立に関する技術開発 ・未臨界度測定・臨界近接監視のための技術開発 (継続) ・臨界防止技術の開発 (継続)																											(継続実施)
			【研究開発】「燃料デブリ・炉内構造物の取り出しに向けた技術の開発」の一部として実施 ・未臨界度測定・臨界近接監視のための技術開発																											(継続実施)
	燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発	燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発	(実 績) ○【研究開発】燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発 燃料デブリ収納・移送技術の開発 燃料デブリ乾燥技術/システムの開発 粉状、スラリー・スラッジ状の燃料デブリ対応 (継続)																									検討・設計 現場作業		
			(予 定) ○【研究開発】燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発 粉状、スラリー・スラッジ状の燃料デブリ対応 (継続) 燃料デブリ収納・移送・保管技術の開発																											(継続実施)
			【研究開発】燃料デブリ収納・移送技術の開発 (収納技術の開発<実機大収納缶試作と構造検証試験、水素発生予測法の検討、水素対策の検討)																											

1号機 PCV内部調査にかかる 干渉物切断作業の状況

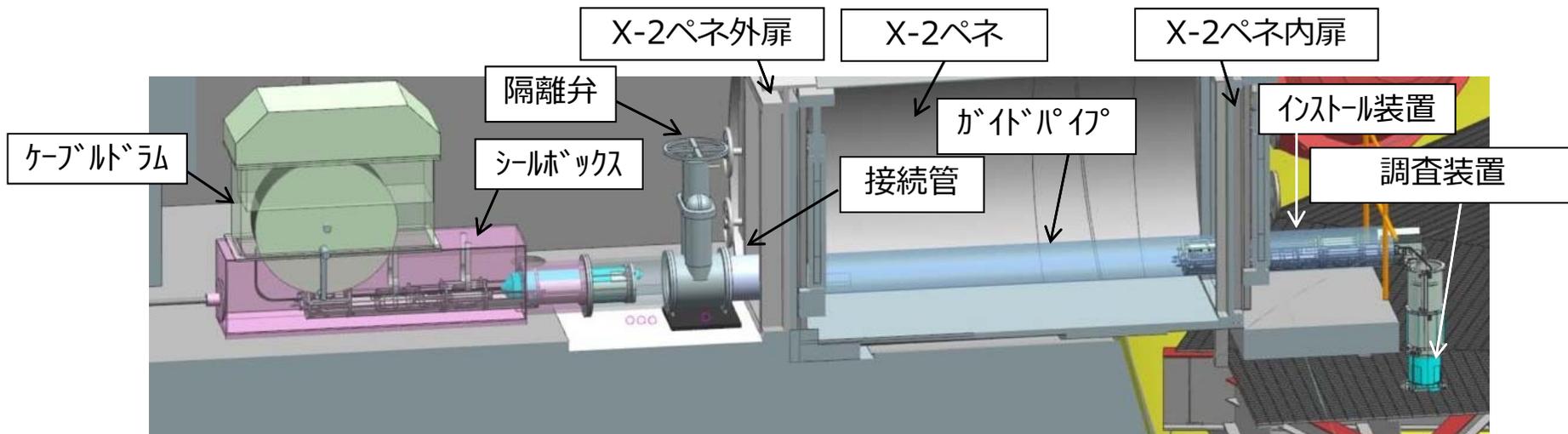
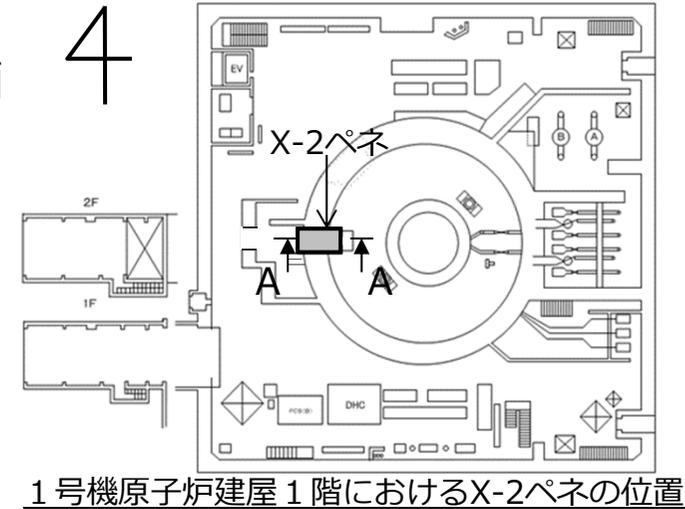
2021年4月27日

IRID **TEPCO**

技術研究組合 国際廃炉研究開発機構
東京電力ホールディングス株式会社

1. X-2ペネからのPCV内部調査装置投入に向けた作業

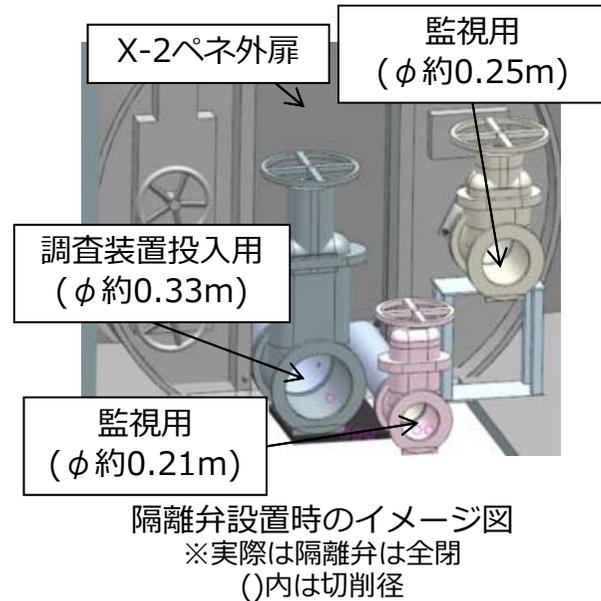
- 1号機原子炉格納容器（以下、PCV）内部調査は、X-2ペネトレーション（以下、ペネ）からPCV内に投入する計画
- 調査装置投入に向け、X-2ペネ（所員用エアロック）の外扉と内扉の切削およびPCV内干渉物の切断等が必要
- 主な作業ステップは以下の通り
 - ① 隔離弁設置（3箇所）
 - ② 外扉切削（3箇所）
 - ③ 内扉切削（3箇所）
 - ④ PCV内干渉物切断
 - ⑤ ガイドパイプ設置（3箇所）



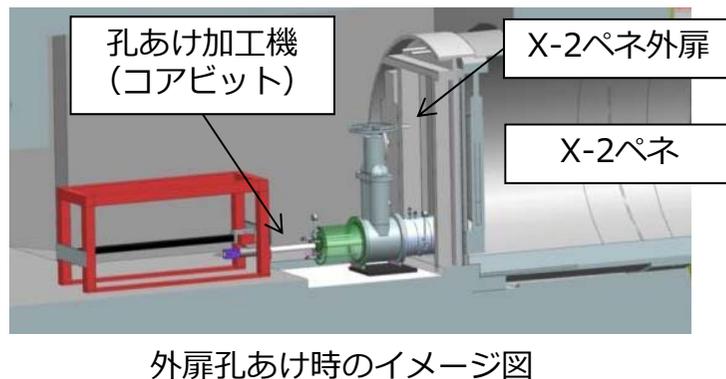
内部調査時のイメージ図 (A-A矢視)

2. PCV内部調査装置投入に向けた主な作業ステップ

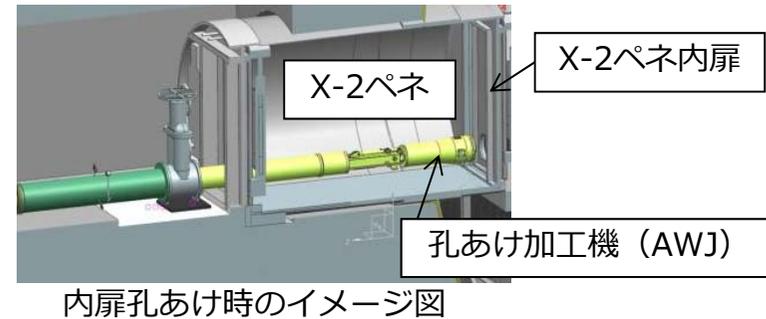
1. 隔離弁設置 (3箇所) 2019.5.10完了



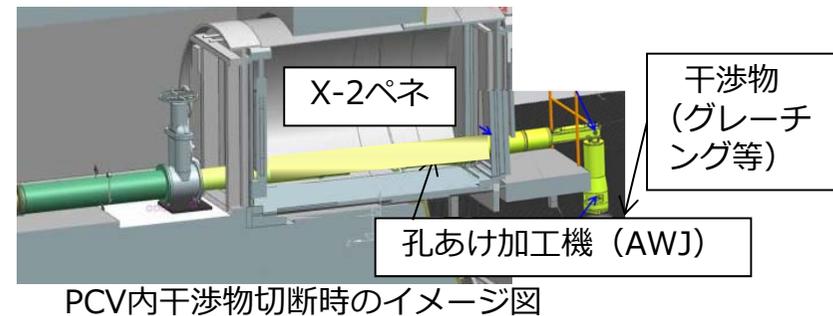
2. 外扉切削 (3箇所) 2019.5.23完了



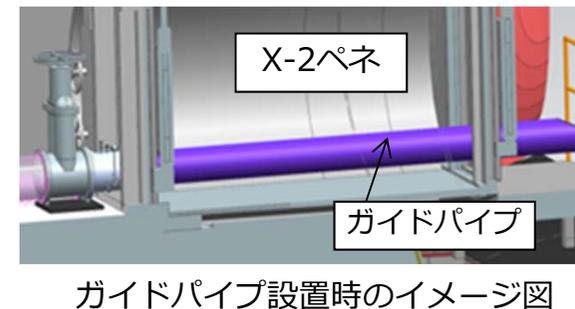
3. 内扉切削(AWJ) (3箇所) 2020.4.22完了



4. PCV内干渉物切断 実施中

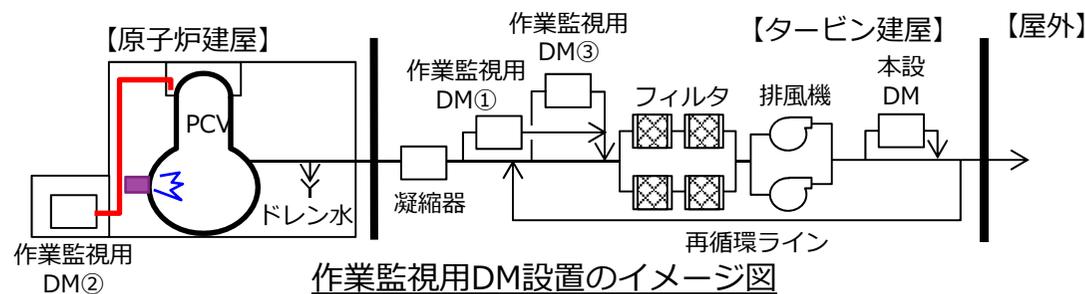


5. ガイドパイプ設置 (3箇所)



3. PCV内部調査装置投入に向けた作業状況

- PCV内部調査装置（以下、水中ROV）投入に向けた作業を2019年4月8日より着手しており、外扉の切削完了後、2019年6月4日にX-2ペネ内扉に、AWJ※¹にて孔（孔径約0.21m）を開ける作業中、PCV内のダスト濃度上昇を早期検知するためのダストモニタ（下記図の作業監視用DM①）の値が作業管理値（ $1.7 \times 10^{-2} \text{Bq/cm}^3$ ）※²に達したことを確認
 - ※作業監視用DM①の下流側にダストを除去するフィルタがあり、フィルタの下流のダストモニタ（下記図の本設DM）には有意な変動はなく、環境への影響はないことを確認
- その後ダスト濃度の監視を充実・継続しつつ、切削量を制限した上で、作業を実施し、内扉の切削が完了（2019年7月～2020年4月22日）、8月25日にグレーチング切断作業が完了
- 9月29日よりグレーチング下部鋼材切断に向けた準備作業中に、切断範囲の下部に原子炉再循環系統（以下、PLR）の計装配管が敷設されていることを確認
- 2021年1月21日に発生したPCV圧力低下事象の対策が完了し、4月23日～26日の予定で干渉物調査を開始したが、23日のカメラ装置インストールに時間を要したこと、また24日に監視用カメラ※³の視界不良が発生し予備品と交換したことから、調査を当初予定の4日間から7日間の予定（23日～29日）に変更する
- 干渉物調査の結果から位置評価を行い、水中ROVの投入ルートを確認した後に切断作業を再開する予定

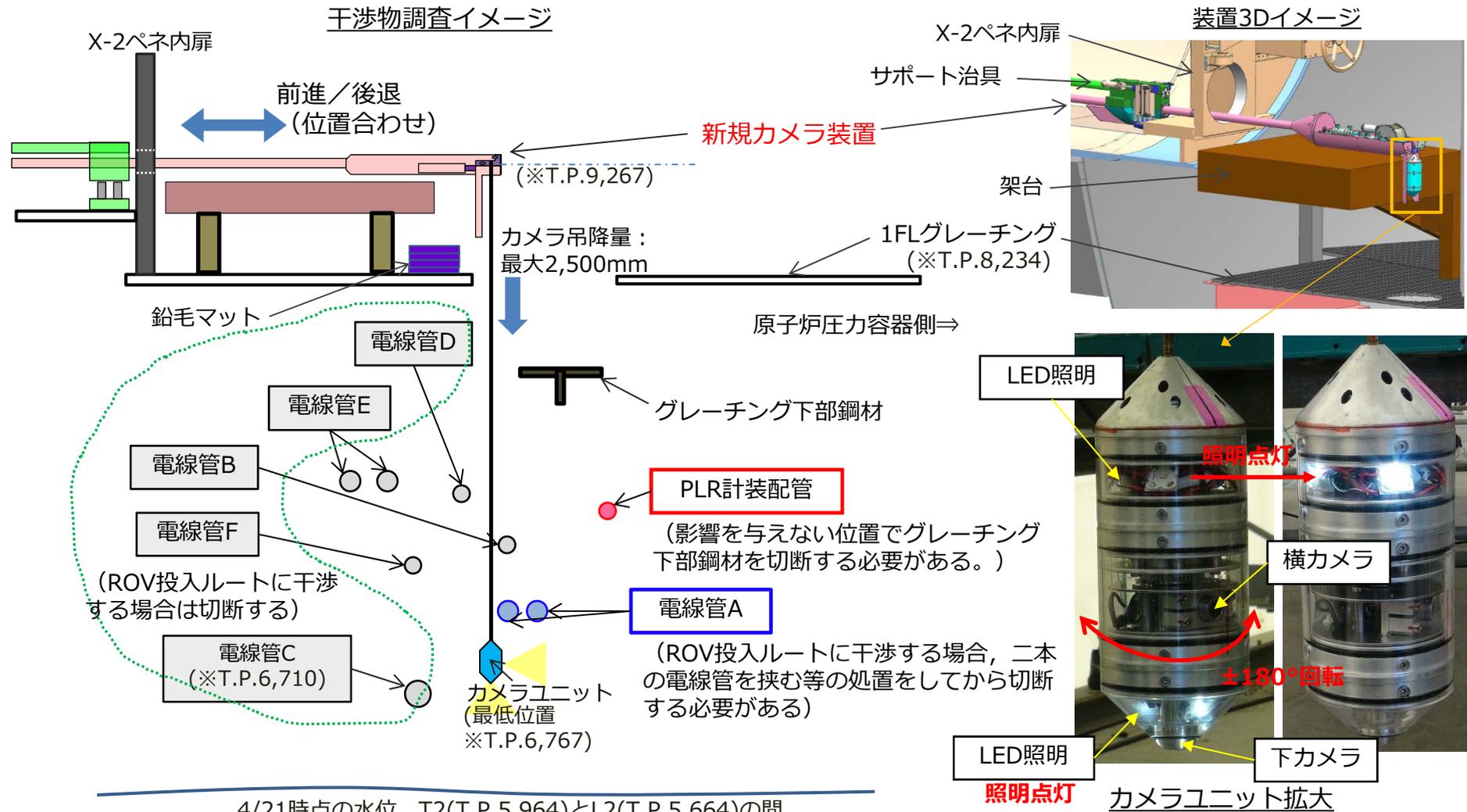


- ※1: 高圧水を極細にした水流に研磨材を混合し切削性を向上させた孔あけ加工機(アプレシブウォータージェット)
- ※2: フィルタのダスト除去能力を考慮し、本設DM警報設定値の1/10以下に設定
- ※3: 新規カメラ装置を俯瞰し監視するため、250Aカメラチャンバから挿入するカメラ

- 作業監視用DM①：ガス管理設備のダスト濃度上昇の早期検知用
- 作業監視用DM②：PCV上蓋近傍のダスト濃度監視用（増設）
- 作業監視用DM③：ダスト濃度監視の連続性確保を目的とした、再循環希釈後のダスト濃度監視用（増設）
- 本設DM：フィルタでのダスト除去後のダスト濃度上昇の早期検知用

4. 干渉物調査の概要

- グレーチング下部鋼材以下の干渉物（PLR計装配管及び電線管）について、詳細な位置を把握するため、干渉物調査を実施



4/21時点の水位 T2(T.P.5,964)とL2(T.P.5,664)の間

※推定高さを記載

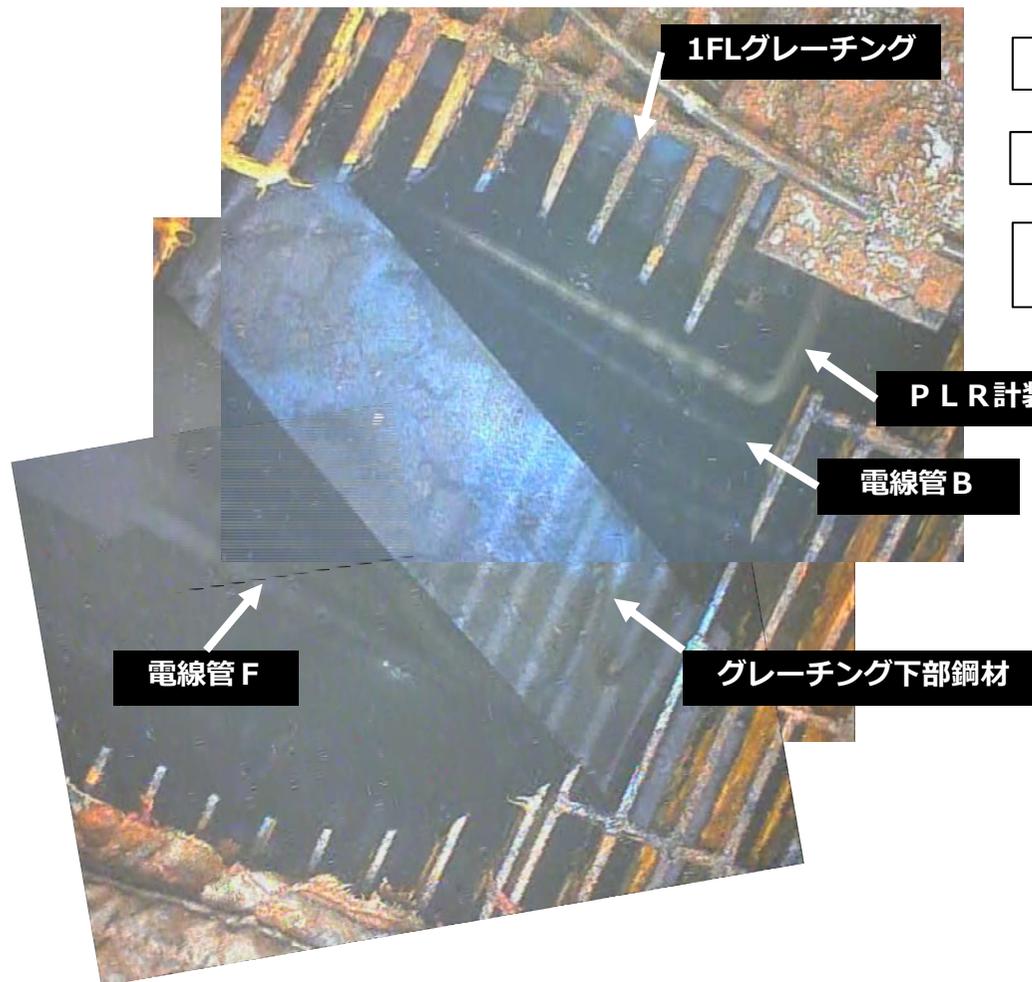
資料提供：国際廃炉研究開発機構 (IRID)

5. 干渉物調査の状況

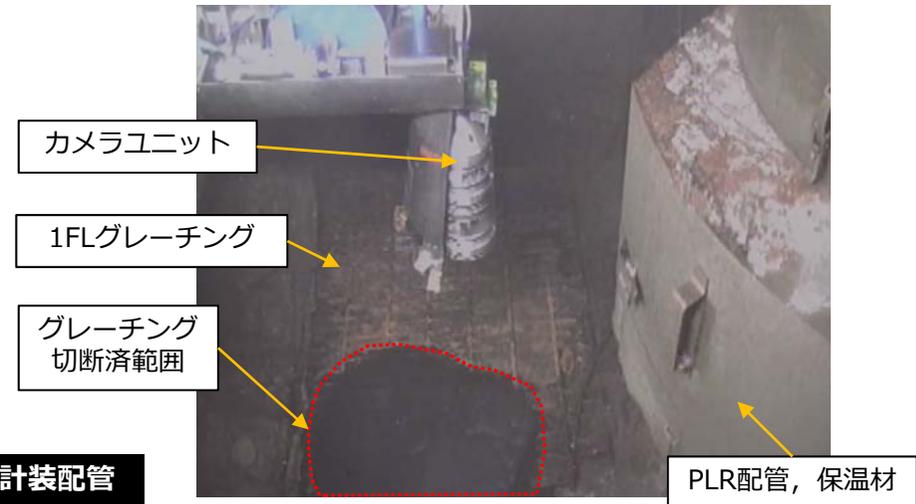
- 4月23日より新規カメラ装置のPCV内インストールを開始，取得した映像データをもとに位置評価を実施中

調査状況

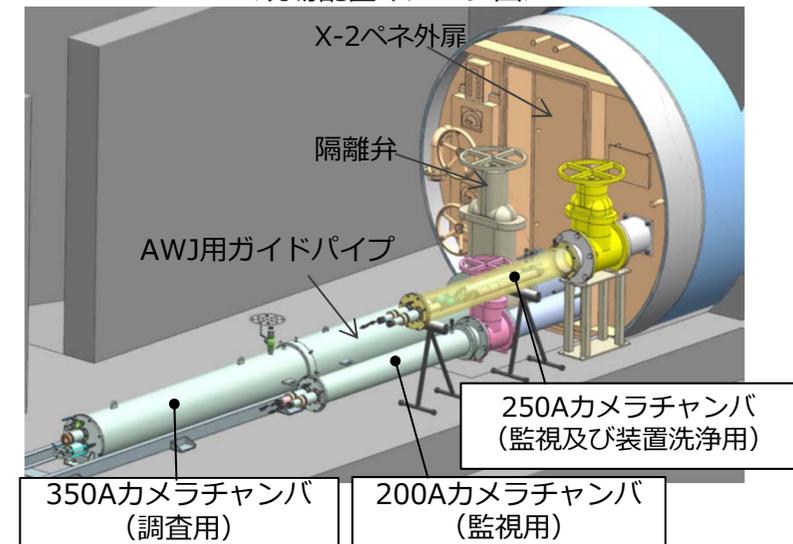
<1FLグレーチング上部からの状況>



<PCV内インストール>



<現場配置イメージ図>



(注) 各干渉物の名称・位置について、詳細な評価を実施中

6. 今後の予定

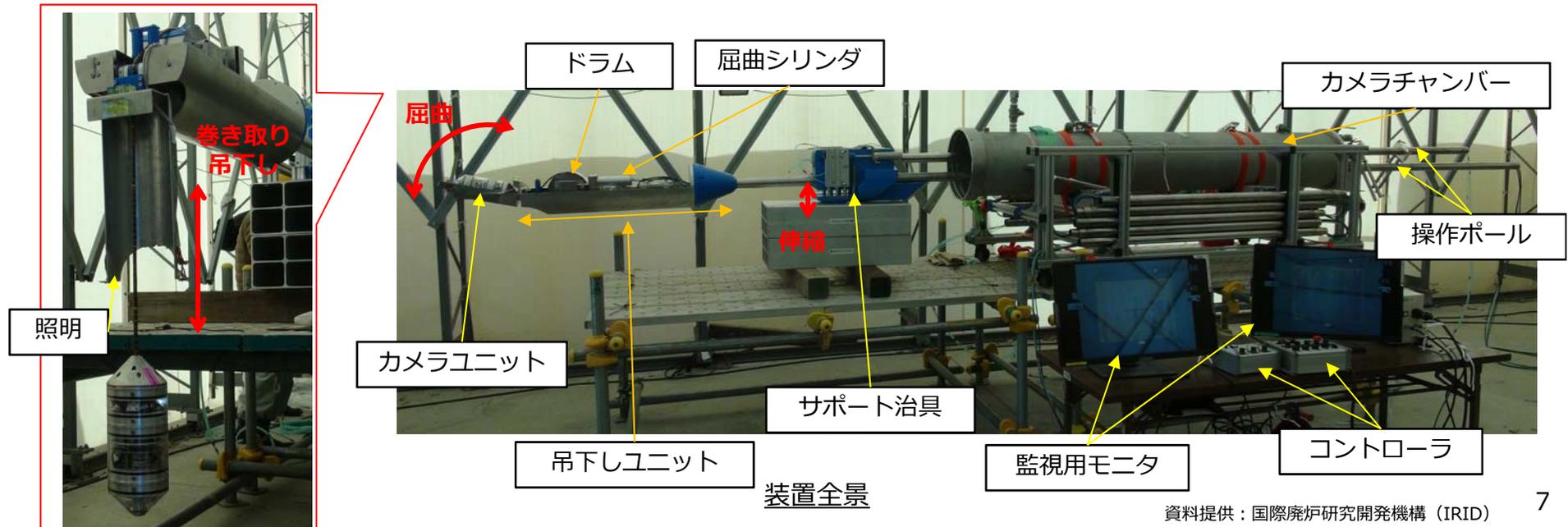
- 今回の干渉物調査で取得した映像データを元に、位置評価を行い、水中ROVの投入ルートを確認し、切断作業を再開する予定

作業項目		2020年度		2021年度		
		2月	3月	4月	5月	6月以降
干渉物切断作業等	PCV内干渉物切断	PCV圧力低下不具合対策		PCV圧力低下現地対策作業	干渉物調査	位置評価
	ガイドパイプ設置(3箇所)			干渉物調査の結果を踏まえ工程を精査		グレーチング下部鋼材、電線管、手摺(横部)切断
1号PCV内部調査(準備含む)						ガイドパイプ挿入・片付け
						準備作業

(注) 各作業の実施時期については計画であり、現場作業の進捗状況によって時期は変更の可能性あり。

(参考) 新規カメラ装置の構成

名称 構成要素	カメラユニット	吊下しユニット	サポート治具	カメラチャンバー	監視・操作系統
役割	各干渉物の映像を取得する	ドラムを搭載し、カメラユニットの吊下し、巻き取りを行う	吊下しユニットを水平に保つよう保持する	調査時にPCVバウンダリを構成	各種操作及び監視を低線量エリアから遠隔にて行う
構成品	カメラ2台 ・横カメラは±180°回転 ・耐放射性約1,000Gy LED照明2箇所 ・照度調整可能	ドラム 屈曲シリンダ (水圧)	サポート部材 伸縮シリンダ (水圧)	チャンバー 操作ポール	監視用モニター コントローラ ・カメラ ・照度

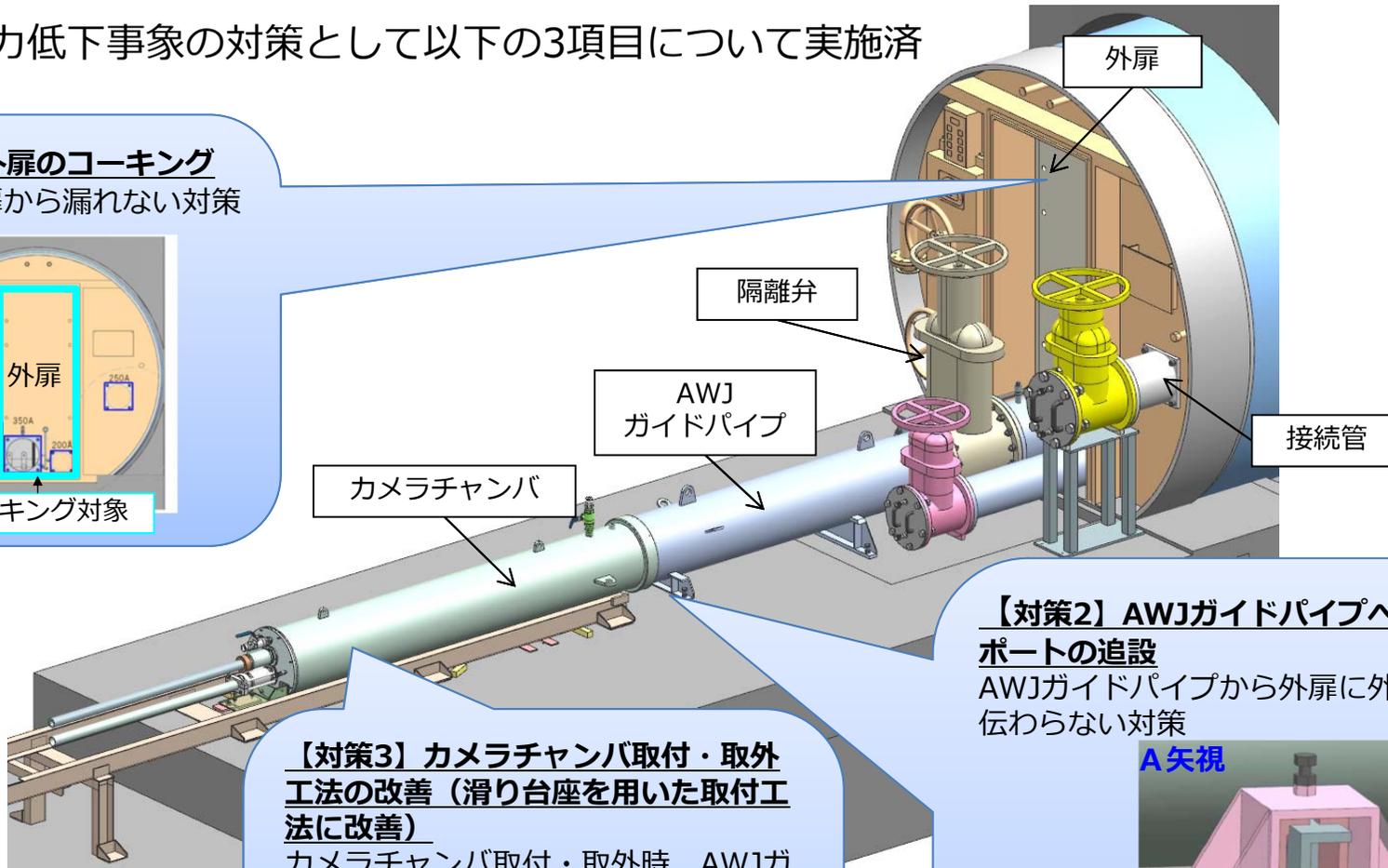
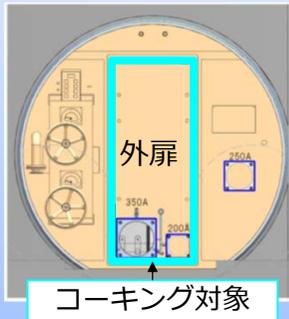


(参考) PCV圧力低下事象の対策一覧

■ PCV圧力低下事象の対策として以下の3項目について実施済

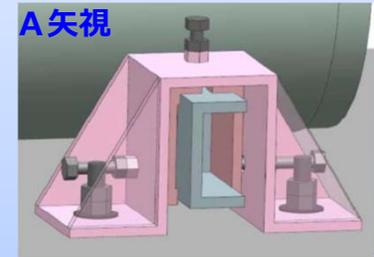
【対策1】外扉のコーキング

X-2ペネ外扉から漏れない対策



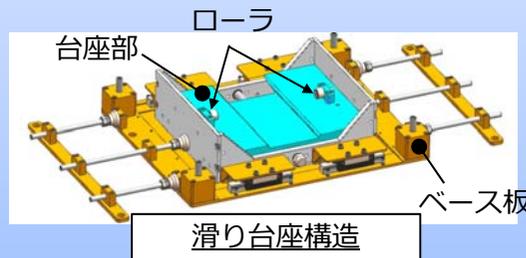
【対策2】AWJガイドパイプへのサポートの追設

AWJガイドパイプから外扉に外力が伝わらない対策



【対策3】カメラチャンバ取付・取外工法の改善（滑り台座を用いた取付工法に改善）

カメラチャンバ取付・取外時、AWJガイドパイプに外力を加えない対策



2号機 PCV内部調査及び試験的取り出しの準備状況

2021年4月27日

IRID **TEPCO**

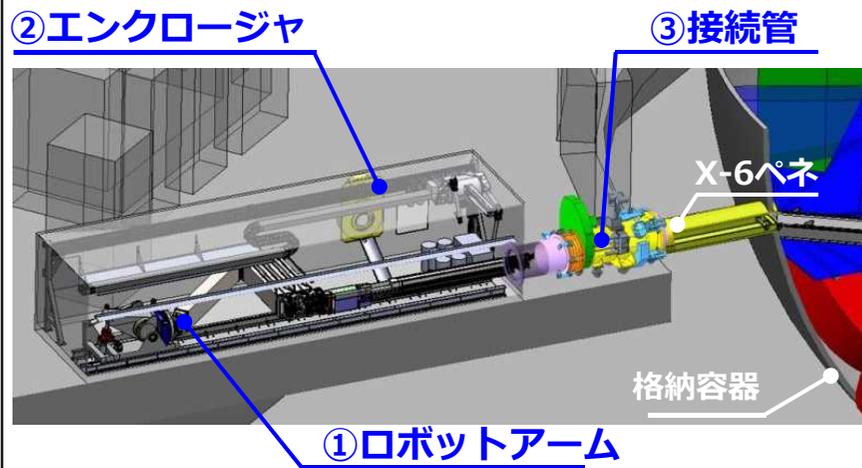
技術研究組合 国際廃炉研究開発機構
東京電力ホールディングス株式会社

1. 2号機 燃料デブリの試験的取り出し装置の概要

- **ロボットアーム**で燃料デブリにアクセスし、**金ブラシや真空容器型回収装置**により、**格納容器内の粉状の燃料デブリ（1g程度）**を数回取り出す予定。
- **IRID(三菱重工担当)**と**VNS(通称OTL※1)**が現在英国でロボットアームを開発中※2。

<試験的取り出し装置の全体像>

- 試験的取り出し装置は3種類の装置から構成。
 - ①ロボットアーム
 - ②エンクロージャ
(ロボットアームを収納、放射性物質を閉じ込め)
 - ③接続管
(エンクロージャと格納容器入口X-6ペネを接続)



<ロボットアーム>

- 先端に取り付ける燃料デブリ回収装置で燃料デブリを取り出すロボットアーム※3。
- 伸ばしてもたわまないよう**高強度のステンレス鋼製**。
 ※3：仕様；長さ約22m、縦約40cm×幅約25cm、重さ約4.6t、耐放射線性約1MGy（累積）



※1：Oxford Technologies Ltdの略。2018年にVeolia Nuclear Solutions (UK) Limited（略称；VNS(UK)）に名称変更（合併）
 ※2：国際廃炉研究開発機構（IRID）により、下記URLに動画「燃料デブリへアクセスするロボットアーム等の日英共同開発の状況」を掲載
<https://youtu.be/8LhDa5z51GQ>

2. 2号機 燃料デブリの試験的取り出し装置の開発状況

- ロボットアームをエンクロージャに組み込み、動作確認を実施中。

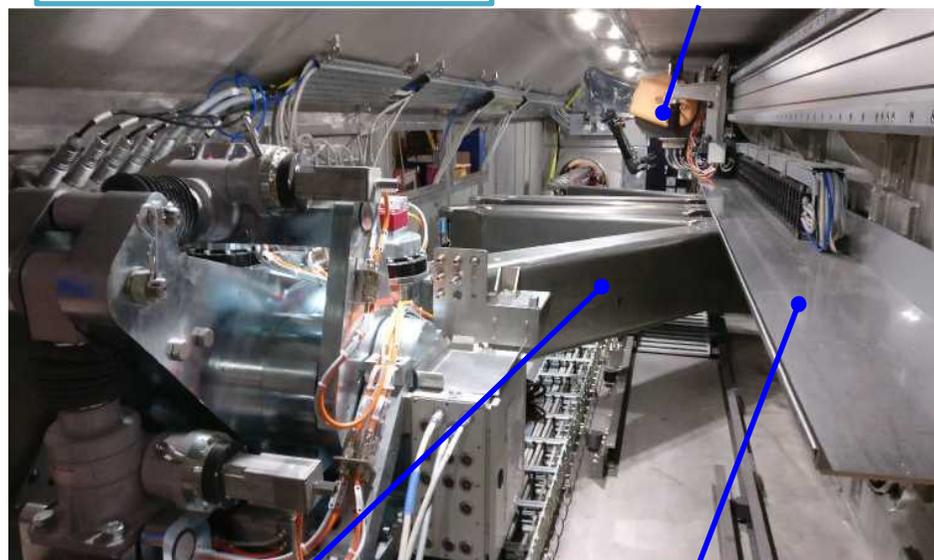
<主な実施内容>

- ロボットアームのエンクロージャへの組み込み 【実施済み】
- 組み込んだロボットアームの動作/干渉確認 【実施中】
- 保守用マニピュレータによるロボットアームカメラの交換（右下写真参照） 【実施中】

<今後の予定>

- 最終動作確認
- 梱包の後、日本へ輸送

エンクロージャ内部

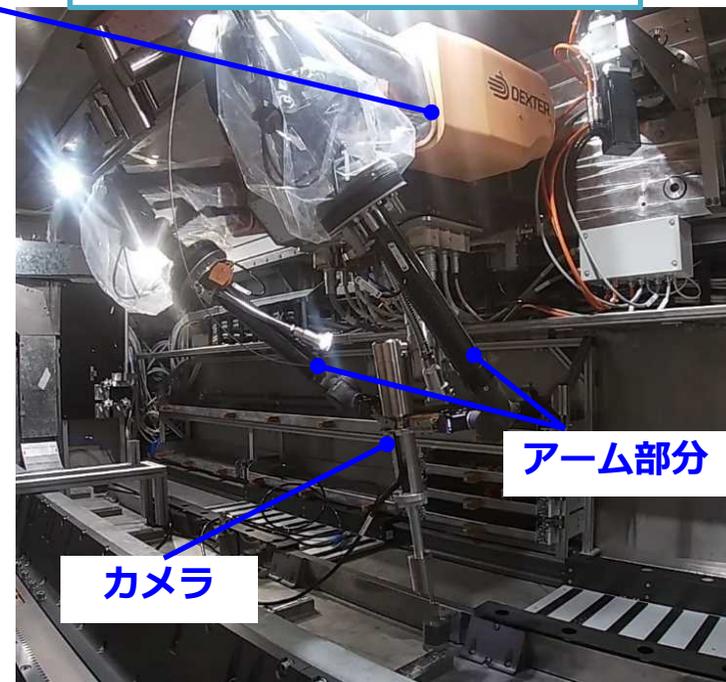


ロボットアーム

保守用マニピュレータ

エンクロージャ

遠隔でのカメラ交換試験



カメラ

アーム部分

3. 工程

- 英国で開発を進めているロボットアームについては、ロボットアームの動作試験やエンクローージャとの組合せの確認試験を進めているところ。
- 年度当初に英国から日本へ装置を輸送し、性能確認試験等の実施を予定していた。
- 英国及び日本における新型コロナウイルスの感染状況や入国制限、動作確認の対応状況を考慮し、一部の性能確認試験等を実施場所を再度調整し英国で実施することとしたことから、輸送時期については精査しているところ。

	～2020年	2021年	2022年
・ X-6ペネ内堆積物調査	▼10/28 接触調査 ▼10/30 3Dスキャン調査		
・ 常設監視計器取外し	▼11/10～16常設監視計器取外し作業		
・ スプレイ治具取付作業		X-53ペネ孔径拡大及びスプレイ治具取付作業	
・ 隔離部屋設置 ・ X-6ペネハッチ開放 ・ X-6ペネ堆積物除去 ・ 試験的取り出し装置設置			
アーム・エンクローージャ 装置開発	製作・動作確認 (英国)	性能確認試験・モックアップ ・訓練 (国内)	
内部調査及び 試験的取り出し作業		輸送時期調整中	

1号機 P C V水位低下計画について

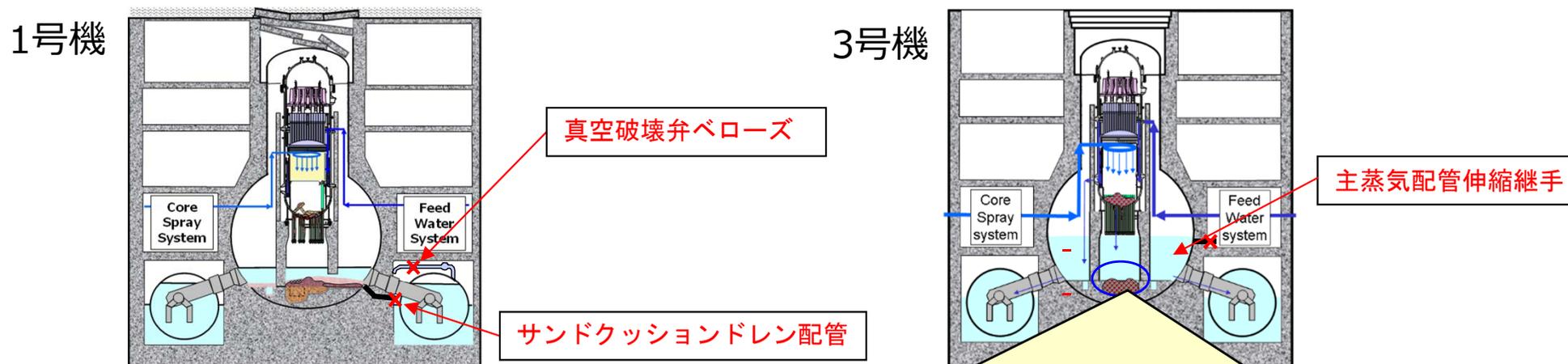
2021年4月27日

TEPCO

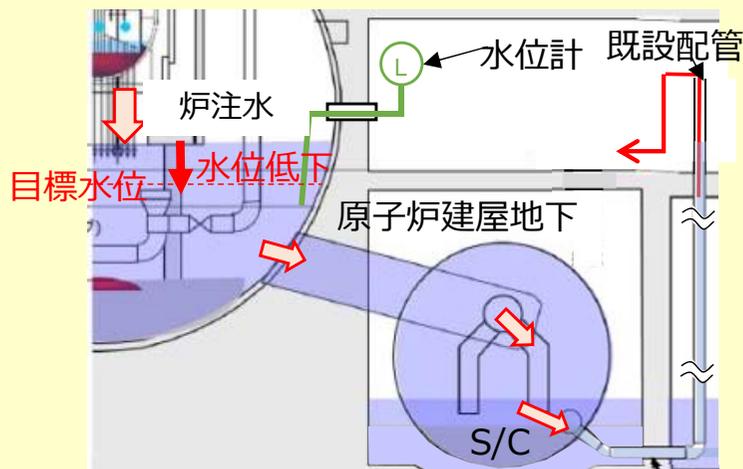
東京電力ホールディングス株式会社

1. PCV水位低下に向けた1 / 3号機の状態について

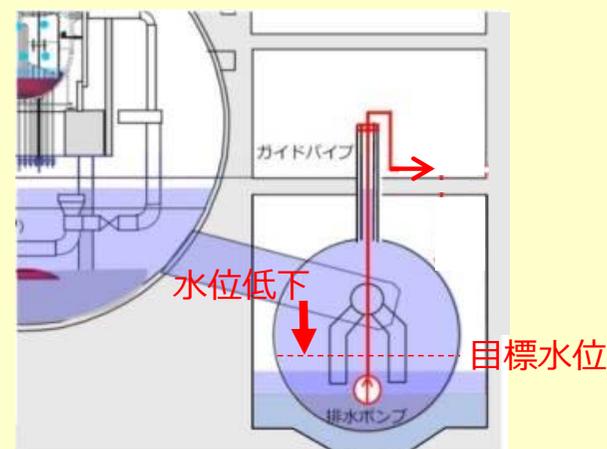
- 1 / 3号機のPCV水位が高く、PCV (S/C) の耐震性向上を図るため、PCV水位の低下を検討。
- PCV水位の低下にあたっては、燃料デブリの冷却状態確認等、安全性を確保しながら、2号と同じ様な掛け流しの環境とすることを想定。
- 3号機は段階的に水位を低下することを計画しているが、今回、1号機の対応についてご報告。



ステップ1 (目標水位: R/B1階床面以下)



ステップ2 (目標水位: S/C下部)



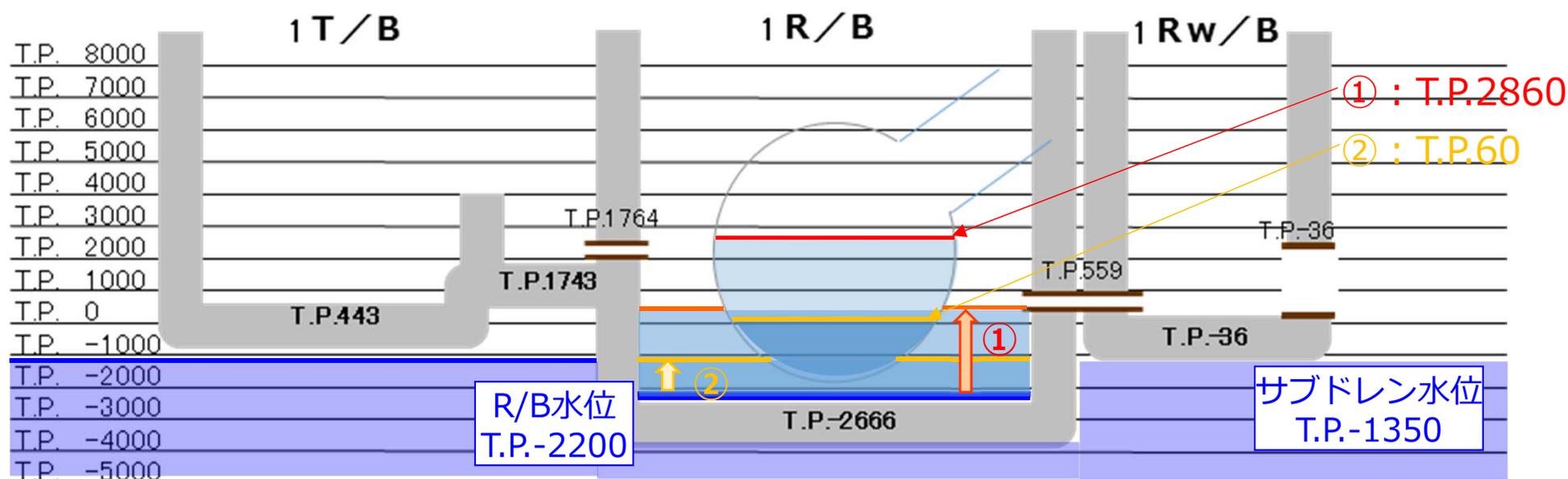
2. 1号機 PCV水位低下の目的と目標について

- 1号機 PCV水位低下については、段階的にS/C水位を低下させることを計画※¹。
 - a. 目的：将来的に地震または劣化等によりS/Cが損傷した場合においても、内包水の系外への流出を抑制
 水位：①S/C内包水が漏えいしても、漏えいがR/B内に留まる（T.P.2860※²：S/C中央付近）
 ②S/C内包水が漏えいしても、建屋-サブドレン水位の逆転なし（T.P.60※²：S/C下部）
 時期：①2023年～ ②2030年度～
 - b. 目的：燃料デブリ取り出し期間に亘ってS/Cをバウンダリとして使用するため、構造健全性(耐震性)を維持
 水位：燃料デブリ取り出し※³に関わる工法と合わせて検討
 時期：燃料デブリ取り出し※³に関わる工程と合わせて検討
- 現時点において、S/C内包水の瞬時の流出という仮定に加え、保守的な条件で建屋水位が上昇しても、建屋水位はR/B1階床面を下回り、建屋外に直接流れ出ないことを確認済み。

※¹ 建屋-サブドレン水位逆転防止に向けた機動的対応の成立性も検討。

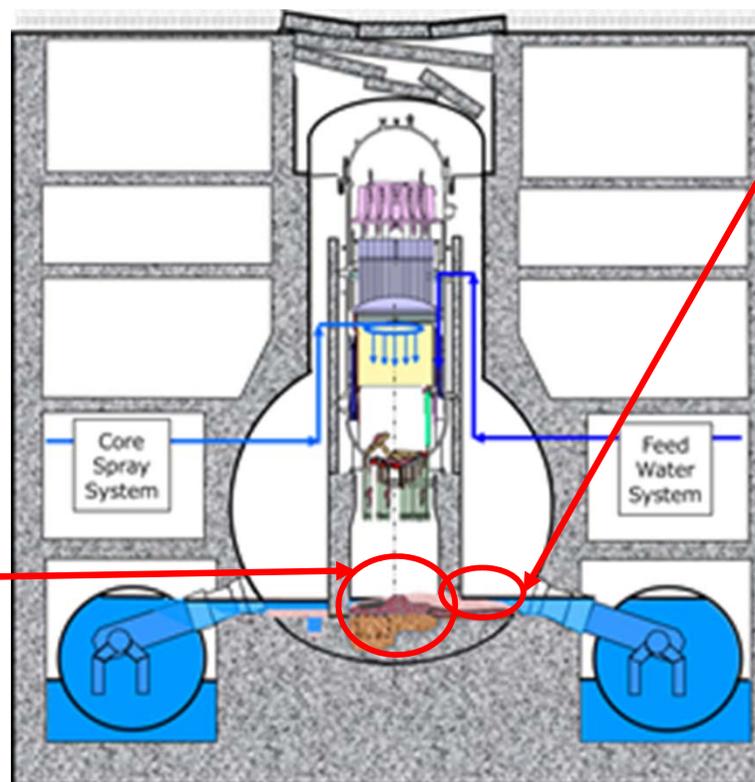
※² 2022年度以降の計画に基づいて算定（数値は、今後も精査）：サブドレン水位 T.P.-1350程度、1号R/B水位 T.P.-2200程度

※³ 1/3号機の取り出し規模の更なる拡大



3. 1号機 PCV (D/W) 内の状況

- 1号機のペDESTAL内の調査は未実施であるが、PCV内の状態推定やミュオン測定の結果から、**溶融した燃料の大部分がペDESTALへ落下している**と推定。
- 3号機のペDESTAL内には2～3m程度の堆積物が確認されており、1号機も同様に堆積している可能性。
- 1号機のペDESTAL外に堆積物（30cm程度）があることを確認。
- 一部の燃料デブリは、**ペDESTAL外まで広がって堆積（開口部：作業員アクセス口を通じて）**している可能性。



ペDESTAL内（内部調査は未実施）

- ✓ PCV内の状態推定やミュオン測定の結果から、溶融した燃料の大部分がペDESTALへ落下していると推定
- ✓ ミュオン測定結果および3号機の内部調査実績から、2～3m程度の堆積物がある可能性。

ペDESTAL外（内部調査は一部実施済）

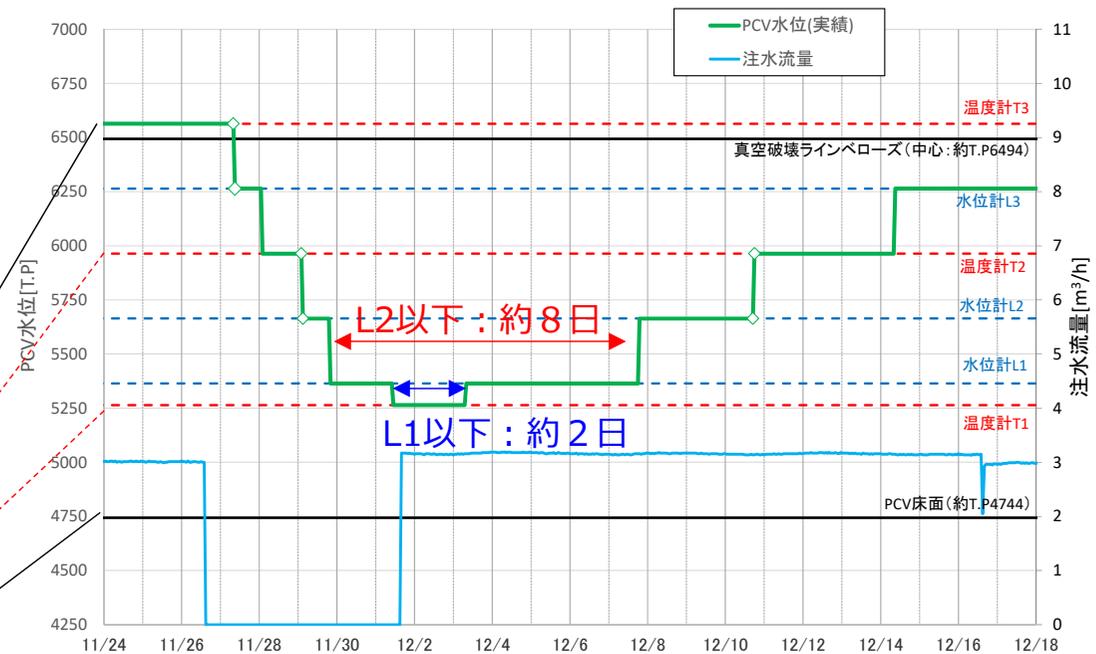
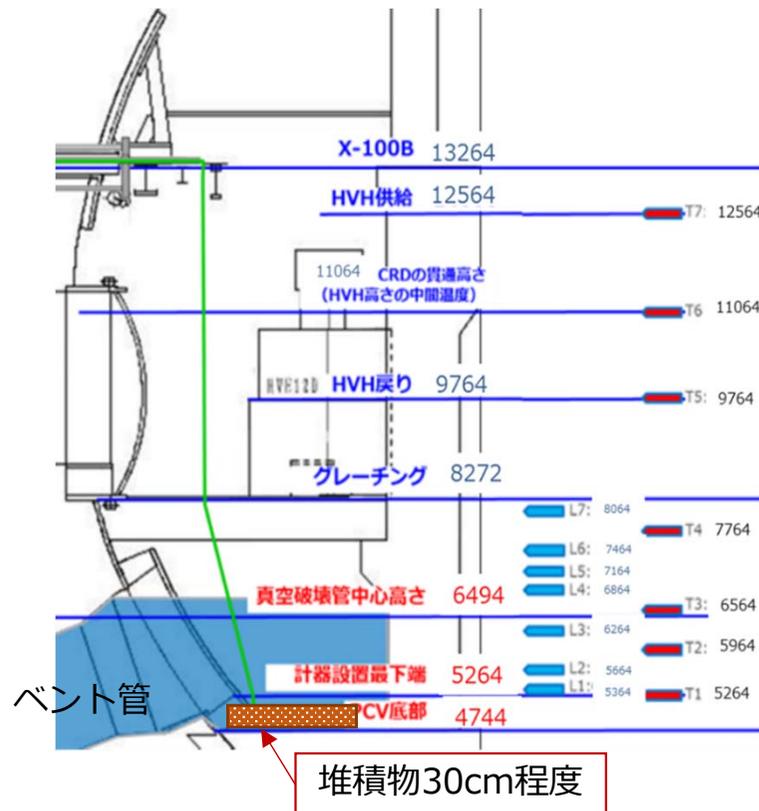
- ✓ 過去の調査(2015年)で堆積物を30cm程度確認



過去にPCV新設温度計・水位計設置時の画像

4. 1号機 PCV (D/W) 水位低下時の影響

- PCV (D/W) の水位を低下させた場合、ペDESTアル内・外に堆積した燃料デブリの一部が露出し、温度やダスト濃度が上昇する可能性。
 - 2020年に実施した注水停止試験において、水位はL2以下で約8日、L1以下で約2日を経験させても、ダスト濃度上昇等がないことを確認。当該試験で水位計L1を切っており、注水を継続すれば当該付近までPCV水位を低下させても問題ない可能性。
 - PCV (S/C) 水位を低下させる場合、PCV水位はPCV底部より30cm程度（ベント管付け根部下端）となるため、その状態で温度やダスト濃度等に問題がないことを確認することが必要。
- ➡ 既存計器（最下端）はPCV底部より50cm程度の高さにあり、PCV水位低下による影響確認方法の確立（更に低い位置への計器設置等）が必要。



2020年 注水停止試験時のPCV水位

5. 1号機 PCV (D/W) 水位低下に向けた方針について

- 1号機のPCV (D/W) 水位を低下させた場合、ペDESTAL内・外に堆積した燃料デブリの一部が露出し、温度やダスト濃度が上昇する可能性があり、PCV関連パラメータを監視しつつ、慎重に低下させることが重要。
- 1号機は、注水量3m³/hの状態ではPCV水位が水位計(L2)を下回り、また、注水量増加(4m³/h)することで、T2まで水位回復することを確認。(この状態で温度、ダスト濃度に異常な上昇がないことは確認済み)
- 現在、温度計や接点式の水位計で水位を確認しているが、連続した水位監視のための計器追設(S/Cの窒素封入ラインへの圧力計追設)も検討中。



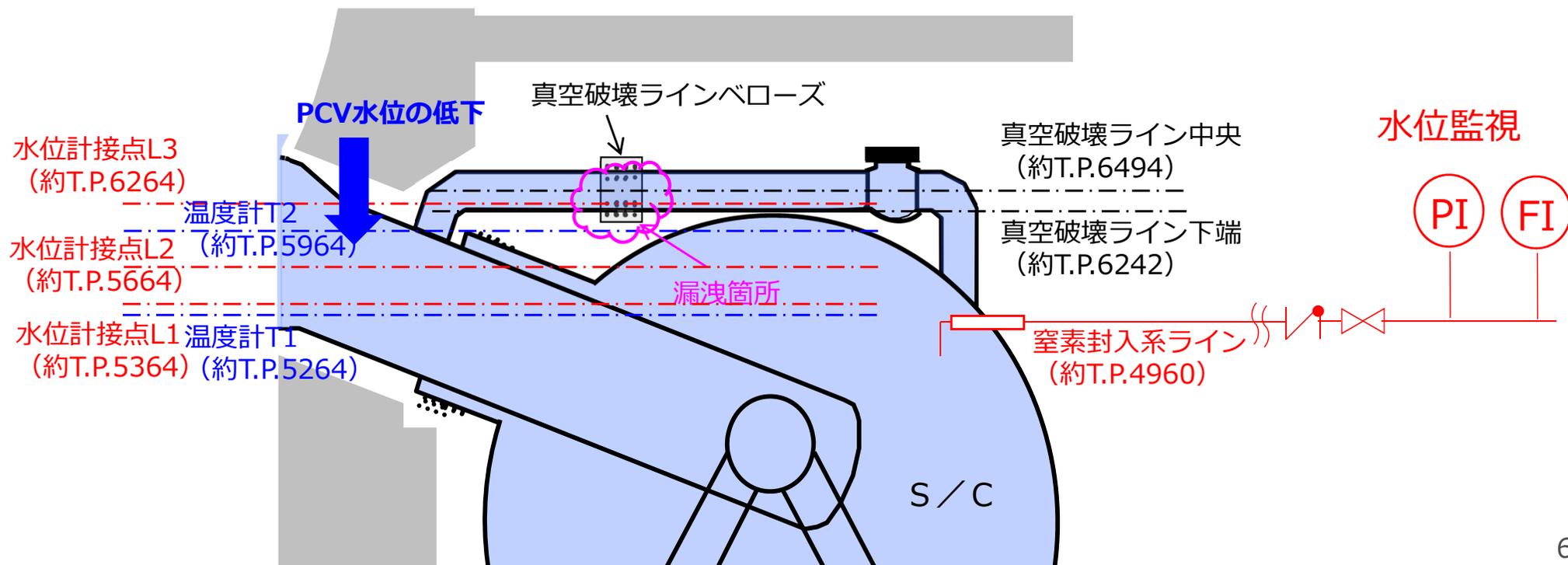
上記を踏まえ、以下の対応を検討。

- ①当面の水位は、監視確保の観点からL2-T2間で維持。
- ②連続した水位監視のための圧力計追設後、水位評価。
→接点式の水位計等との比較のため流量調整により、状況変化を確認予定。
- ③連続した水位監視が可能なことを確認後、L1-L2間での維持に変更。(水温確認のために温度計(T1)より上を維持)
- ④水中ROVによる内部調査を行う際は、水位を回復させ、終了後に元の水位(③)に戻す。
(影響確認方法の確立を踏まえつつ、注水量低減・停止等によるPCV水位低下を検討)

※圧力計による連続した水位監視ができない場合も、温度、ダストに異常な上昇がないことを確認しながら既存計器での水位低下を検討

6. 1号機 水位監視計器強化に関わる対応について

- S/Cへの窒素封入ラインに圧力計を追設し、系統圧力を評価することで水位トレンドの確認ができないか、検討中。当該対応の実施状況は以下の通り。
 - 既設S/C窒素封入ライン出口圧力は、系統の圧力損失分が大きく、水位評価の精度向上のため、既存の流量計を交換の上、流量低減を実施し、系統圧損の流量依存性を確認（3月19日）。
 - 水位計としての精度向上のため、低レンジの圧力計を追設（3月29日）。
 - 今後、当該計器を水位計として用いる妥当性を確認するため、接点式水位計との比較や温度・圧力による水位換算式の補正を行い、運用開始することを計画(5月上旬以降)。
- なお、水位を連続的に監視する伝送化は、別途検討中。



7. 1号機 PCV水位の更なる低下に向けた対応案

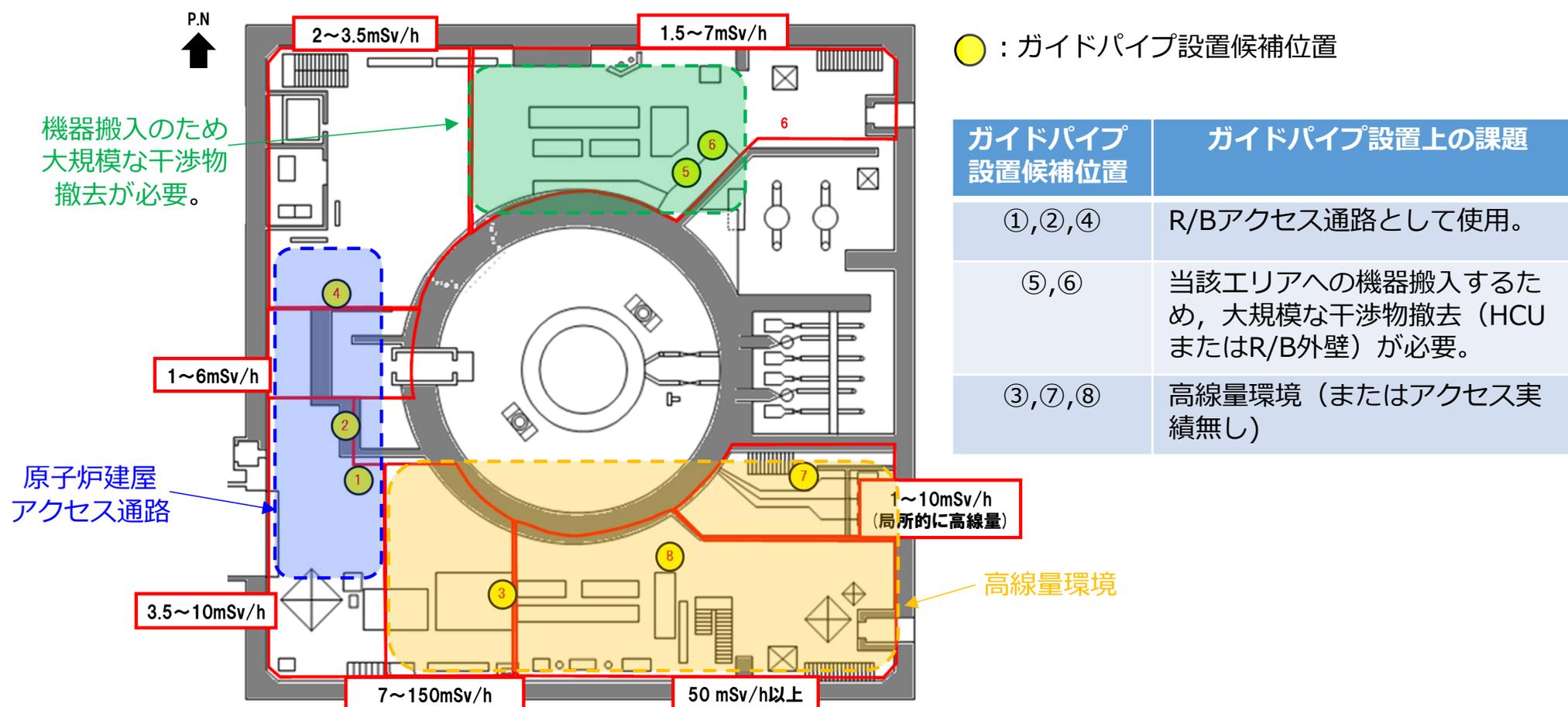
- S/Cから取水（排水）するのに、以下の方法が考えられるが、建屋内のスペース、線量等が3号機と異なっており、1号機の状態を踏まえた対応を選択することが必要。

	ガイドパイプを用いた水位低下	①既設配管を活用した水位低下	②炉注水停止	③ドレン配管施工
イメージ図				
耐震性向上の有効性(水位低下範囲)	○ (S/C下部)	△ (S/C中心程度まで)	× (S/C水位は低下しない可能性あり)	○ (S/C下部)
技術成立性	未定	△	○	未定
実施可能時期	未定	2023年度以降	長期間の炉注停止時期は未定	未定
安全・運用上の懸念	・ポンプによる水位制御により、プラント状態に応じた対応が可能	・ポンプによる水位制御により、プラント状態に応じた対応が可能	・燃料デブリに対する冷却性低下 ・温度上昇に伴うダスト濃度の上昇	・地下階は高線量(10 ² mSv/hオーダー)であり、アクセス性が悪く操作性(非常時の対応)やメンテナンス性等に課題あり

8-1. 1号機 PCV (S/C) 水位低下に向けた課題について

- 1号機にて、地下階の干渉物位置等からガイドパイプ設置候補位置を検討中。
- 建屋内の設置スペースや線量等の観点から、ガイドパイプによるPCV (S/C) からの取水は、早期実現に向けた課題が大きい。

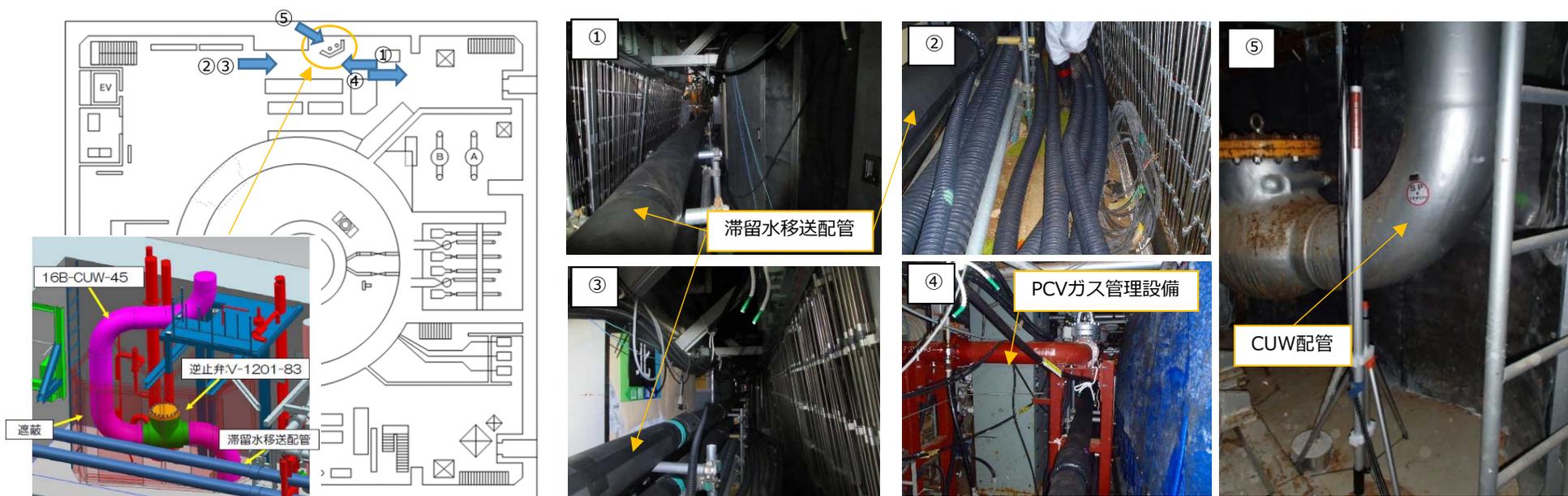
➡ 3号機とは違う形でのPCV (S/C) 水位低下も検討。



1号機原子炉建屋のガイドパイプ設置候補位置(①～⑧)
及び原子炉建屋内の環境線量状況

8-2. 既設配管を用いたPCV (S/C) 取水の検討状況

- PCV(S/C)に接続する既設配管のうち、以下条件を考慮した結果、冷却材浄化(CUW)系配管を用いた取水方法のみが候補として抽出。
 - 取水箇所からPCV(S/C)まで、「閉状態で操作困難な弁」や「流路を阻害する方向に設置された逆止弁」が無いこと。
 - ポンプ揚程の観点から、取水箇所(高さ)は原子炉建屋1階以下であること。
 - 取水箇所周辺で撤去困難な干渉物が無く、作業可能な環境線量(10mSv/h以下を目安)であること。
 - 当該の取水箇所は狭隘環境であり、付近の重要設備(滞留水移送配管等)に影響が無いように工事する必要があり、被ばく低減のための線量低減の検討も行っていく。
- ➡ 既設配管(CUW配管)を用いた取水について、今後も現場作業成立性の検討が必要。



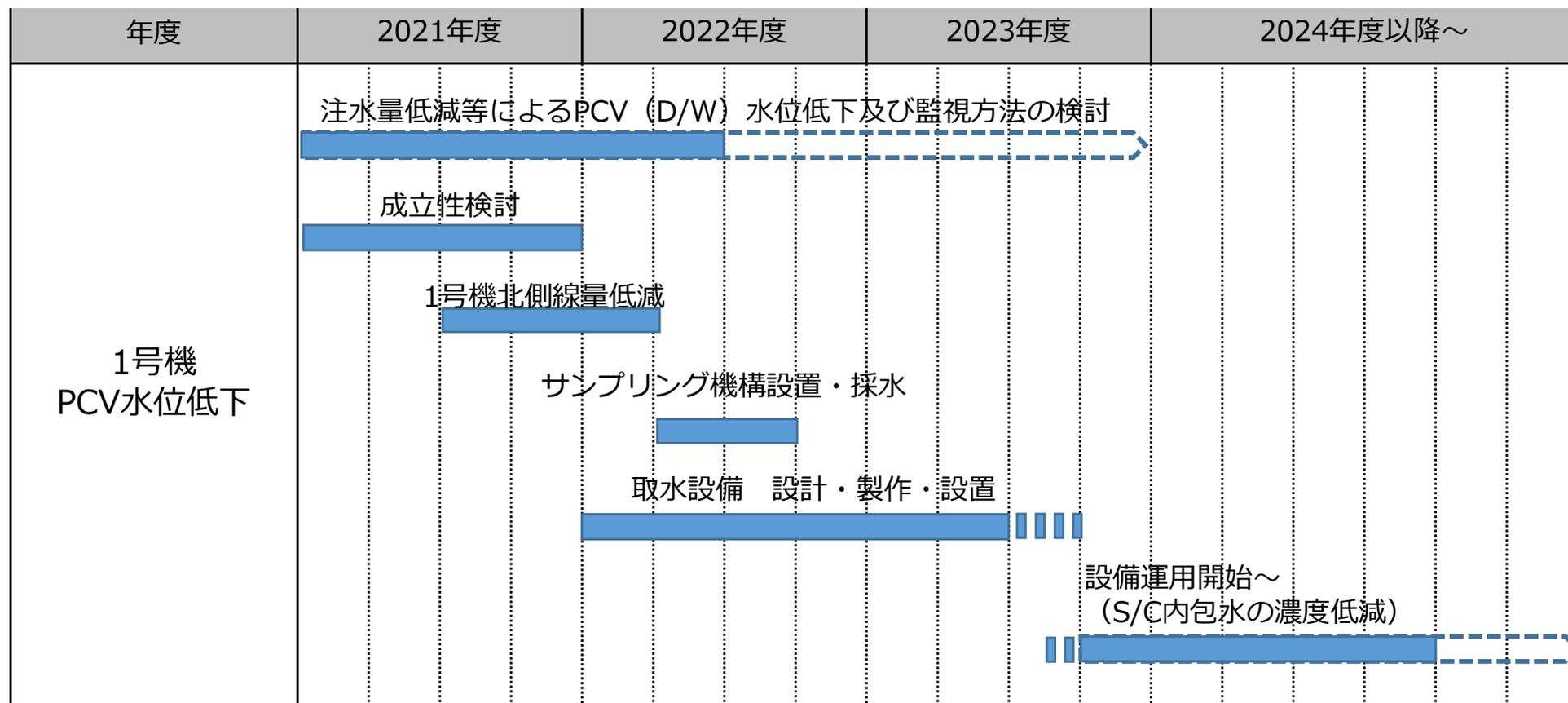
1号機冷却材浄化(CUW)系配管周りの現場状況について

9. 1号機 PCV (S/C) 水位低下に向けて必要な対応について

■ 以下を踏まえ、PCV (S/C)水位低下に向けた対応を検討予定。

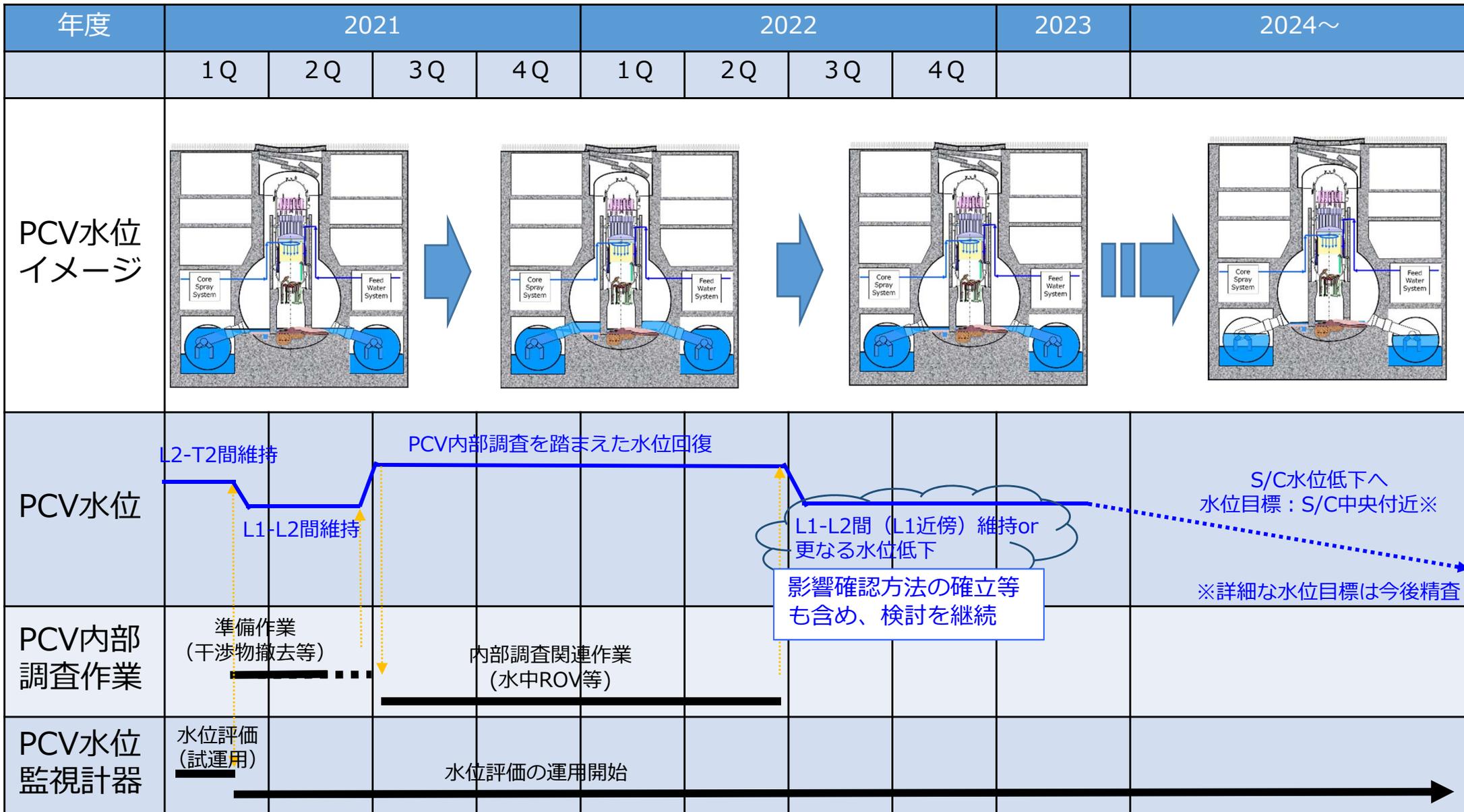
- 既述のPCV (S/C)取水の成立性検討を行うと共に、設置エリア周辺の環境改善。
- 1号機のPCV (S/C) 水位低下する設備等を設計するにあたり、取水するS/C内包水の水質の把握（サンプリング機構設置・採水）。

なお、注水量低減等によるPCV (D/W) の水位低下を検討すると共に、水位低下時のD/Wの水位・温度の監視方法も、並行して検討を行う。



10. 1号機 PCV水位低下計画について

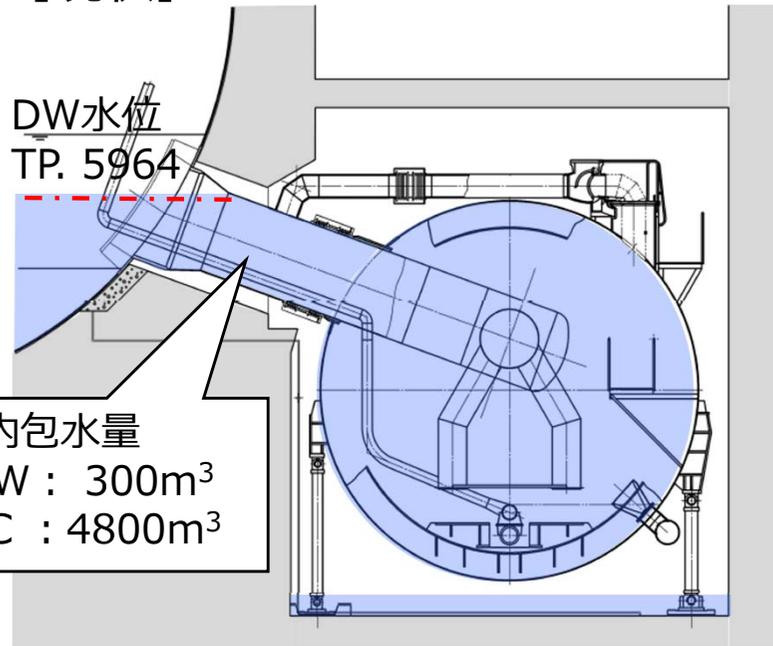
- 1号機PCV (D/W) 水位低下に関わる方針及びPCV (S/C) 水位低下に向けて必要な対応も踏まえ、以下の計画での対応を検討。



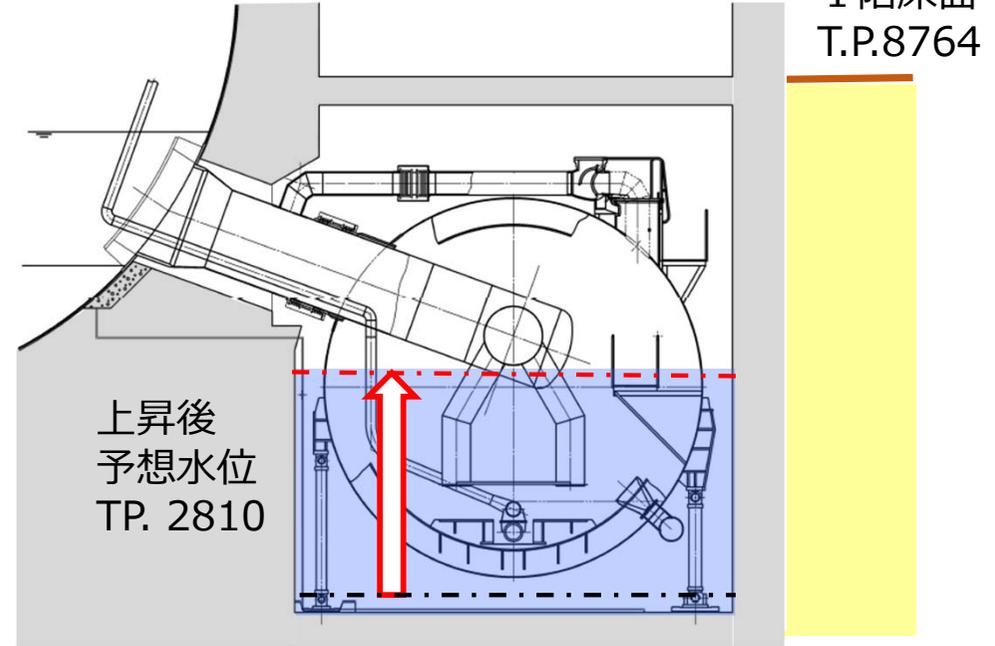
【参考】 S/C内包水の建屋への流出を仮定した場合の影響評価について **TEPCO**

- 現時点の建屋水位に対し、S/C内包水の瞬時の流出という仮定に加え、以下の保守的な条件で評価しても、建屋水位がR/B1階床面レベルを下回り、建屋外に直接流れ出ない。
 - 建屋滞留水の移送停止
 - 建屋の連通がなく、R/B内のみで水位が上昇

【現状】



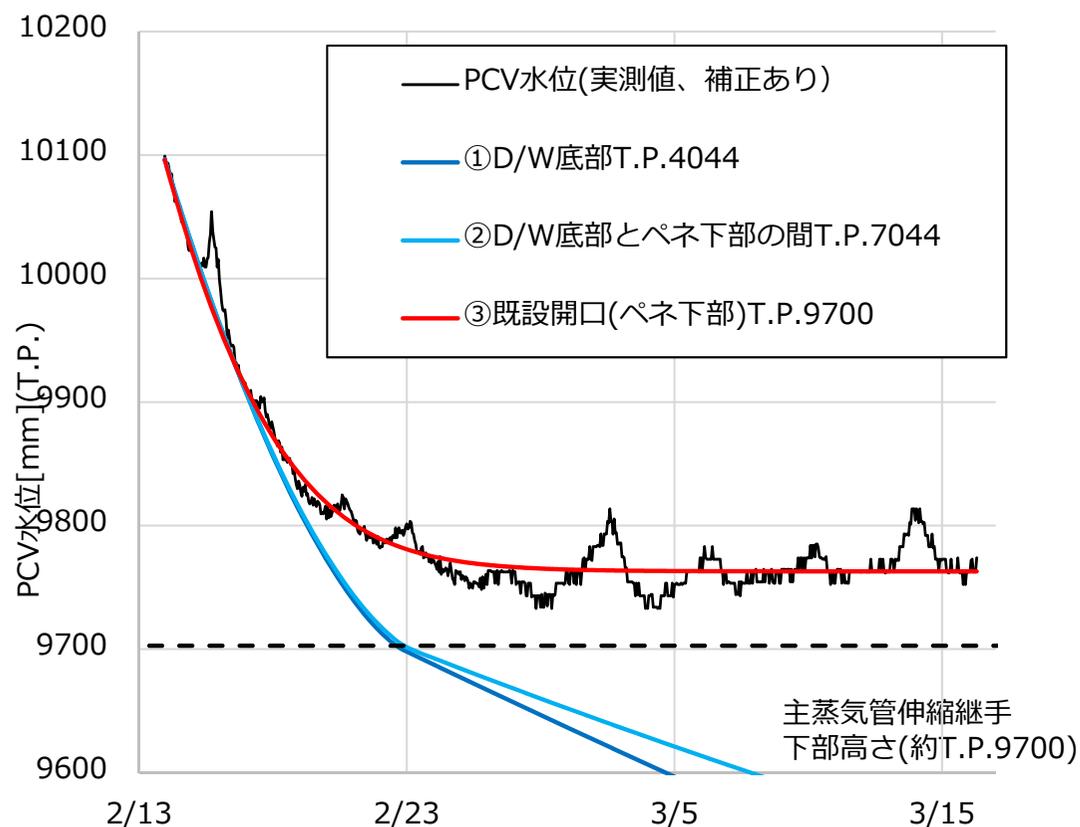
【評価結果】



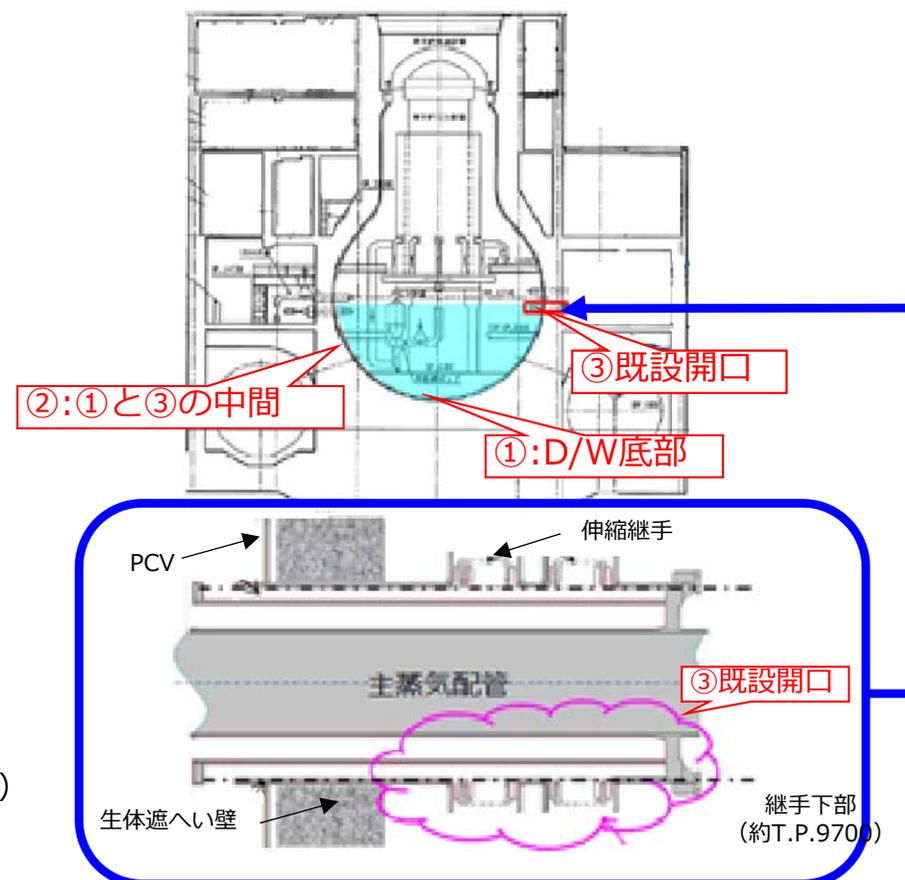
現時点の建屋水位	T.P.-2000程度
上昇後の予想水位	T.P.2810程度（1号R/B）
原子炉建屋1階床面	T.P.8764

【参考】水位トレンドから推定可能な知見について

- 水位トレンドを把握している場合、損傷位置を仮定し、PCV水位低下速度にフィットする開口を設定することで、水位変化の挙動を予測することが可能。
- 3号機において、水位安定位置（主蒸気管伸縮継手下部を想定）の開口を仮定した場合と、D/W底部に開口を仮定した場合の水位挙動は以下の通り。



PCV水位実測値と仮定した開口毎の水位の挙動



仮定した開口（左グラフ①～③）位置について

➡ 3号機の水位挙動実績から考えると、主蒸気管伸縮継手下部の影響が大きいと想定。

【参考】1号機 水中ROV調査の必要性について

- 1号機の水中ROV調査は、ペDESTAL外の大範囲とペDESTAL内の調査を行うことにより、堆積物回収手段・設備の検討と堆積物回収、落下物解体・撤去などの工事計画に係る情報収集を目的とする
- 潜水機能付ボート型アクセス・調査装置については、機能毎に6種類

実施項目	必要性	作業の流れ（イメージ）
<p>＜ガイドリング取付＞ ジェットフレクタにガイドリングを取付る</p>	<p>各ROVに有線で接続されるケーブルが構造物と干渉するのを回避するために必要</p>	
<p>＜詳細目視＞ ペDESTAL内にアクセスし、CRDハウジング、燃料デブリ堆積物等の目視調査</p>	<p>燃料デブリ取出し工法の検討と作業性の安全確保のために、ペDESTALの健全性確認は必要</p>	
<p>＜堆積物3次元形状測定＞ 堆積物の高さ分布を調査</p>	<p>燃料デブリ取出し工法の検討と装置設計へのインプット情報入手のために、堆積物の高さ調査は必要</p>	
<p>＜堆積物厚さ測定＞ 堆積物の厚さとその下の物体の状況を計測し、燃料デブリの高さ、分布状況を推定</p>	<p>装置設計へのインプット情報、臨界監視検討のために、燃料デブリの高さ、分布状況の調査は必要</p>	
<p>＜中性子束測定＞ デブリ検知センサを堆積物表前に投下し、各種分析と中性子束測定によりデブリ含有状況を確認</p>	<p>装置設計へのインプット情報、臨界監視検討のために、燃料デブリの高さ、分布状況の調査は必要</p>	
<p>＜堆積物少量サンプリング＞ サンプリング装置を堆積物表面に投下し、サンプリングを行う</p>	<p>燃料デブリ取出し工法の検討と装置設計へのインプット情報入手のために、堆積物のサンプリング調査は必要</p>	

※：堆積物の厚さや燃料デブリの有無及び厚さは未知だが、説明のためイメージとして記載

【参考】PCV（S/C）取水に用いる既設配管の抽出について

- PCV(S/C)に接続する既設配管のうち、以下の条件①に該当するものを以下表に記載。条件②で取水箇所が地下階のものは対象外とし、条件③環境線量及び作業性等を考慮し、CUW系配管を抽出

①取水箇所からPCV(S/C)まで「閉状態で操作困難な弁」や「流路を阻害する方向に設置された逆止弁」が無いこと。

②ポンプ揚程の観点から、取水箇所(高さ)は原子炉建屋1階以下であること。取水箇所が地下階となる配管へのアクセスは、建屋床の穿孔作業が必要。

③取水箇所周辺で撤去困難な干渉物が無く、作業可能な環境線量(10mSv/h以下を目安)であること。

系統	PCV(S/C)貫通孔	②取水箇所(高さ)	ポンプ設置場所	③環境線量[mSv/h]	備考(作業性等)
AC系	X-202	地下階	1階南東	~5	
	X-205	1階	1階北西	~3	S/C窒素封入に使用中。(水位計追設予定)
FCS系	X-218	地下階	1階南	>100	—
	X-227	1階	1階北西	~3	取水箇所からS/Cまでの配管経路に複数の曲がり部が存在し、取水ホース及び水位計の設置が困難。
HPCI系	X-220	地下階	1階南西	>100	
	X-221	地下階			
CCS系	X-210A	1階	1階北	~10	取水箇所からS/Cまでの配管経路に分岐や複数の曲がり部が存在し、取水ホース及び水位計の設置が困難。
	X-210B	1階	1階南	>100	
	X-211A	地下階	1階北	~10	
	X-211B	地下階	1階南	>100	
CUW系	X212	1階	1階北	~5	取水箇所から取水箇所からS/Cまでの配管経路の曲がり部は1カ所

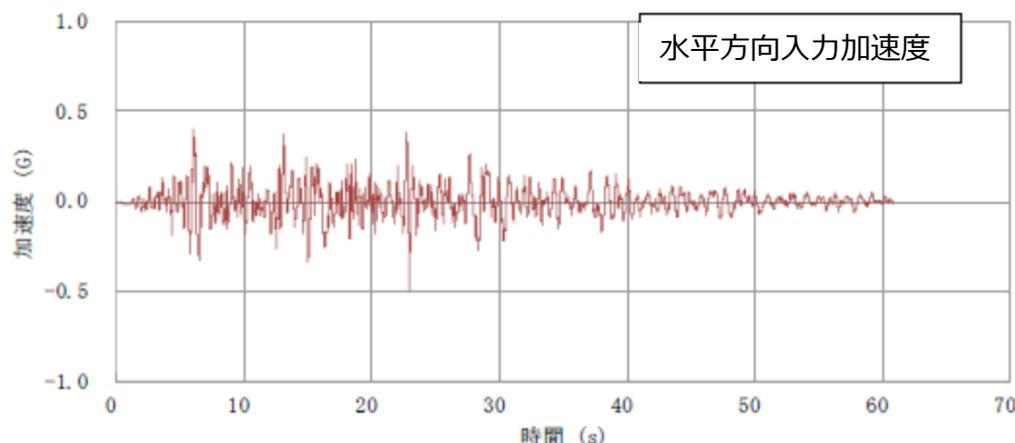
【参考】1号機 耐震評価結果について (1/2)

【評価条件】

- 基準地震動Ss(600gal) に対する評価を実施。
- 震災後20年(2031年)の劣化(腐食減肉)を考慮。
- S/C周囲の建屋滞留水はないものとして評価。

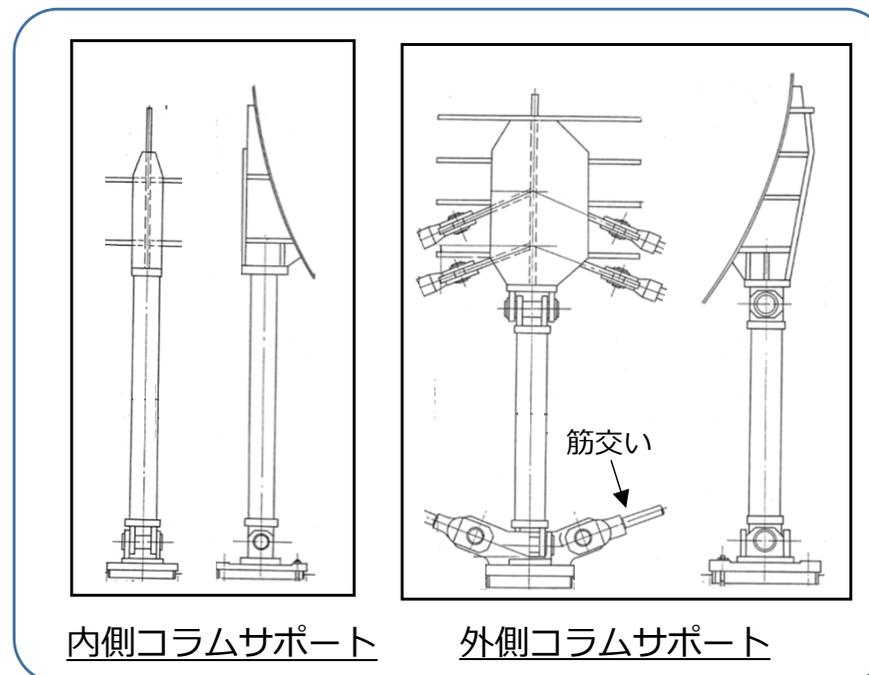
【評価方法】

- 現状の実力を評価する観点で、規程や規格(注)に準拠しつつ、以下の手法で実施。
 - ①耐震評価が厳しい部位についてS/C支持機能維持を確認するため、S/C全体のFEMモデルを構築し、コラムサポートの弾塑性特性から限界変位量を算定。
 - ②FEMモデルに地震波を直接入力して時刻歴応答解析を実施し、最大変位量と限界変位量を比較して耐震性を評価。

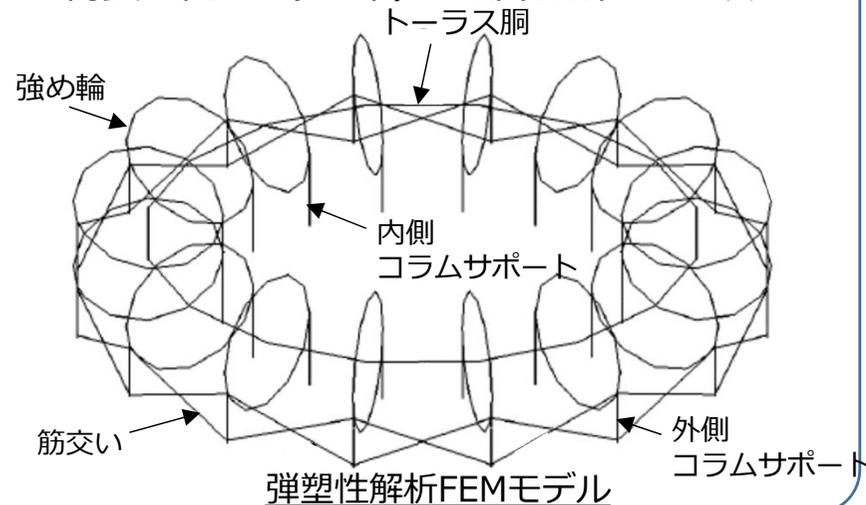


基準地震動における床面の加速度時刻歴 (上記は水平方向)

(注) 評価手法(弾塑性解析) は原子力発電所耐震設計技術規程に、許容値は発電用原子力設備 維持規格に準拠。



- トーラス胴, サポート部を弾塑性要素でモデル化
- 腐食減肉量(20年)を部材剛性に反映



【参考】1号機 耐震評価結果について (2/2)

- 震災後20年(2031年)までの腐食減肉を考慮した条件で、耐震上最も厳しい部位(コラムサポート)の最大変位量は、限界変位量(許容量)を超えず、サポートの支持機能は維持され、S/C本体の耐震性に問題がないことを確認。

対象部位	①限界変位量 (許容値)	②最大変位量	裕度(①/②)
内側コラムサポート	35.2mm	24.4mm	1.44
外側コラムサポート	35.3mm	24.1mm	1.46

1号機PCV (S/C) 耐震評価結果

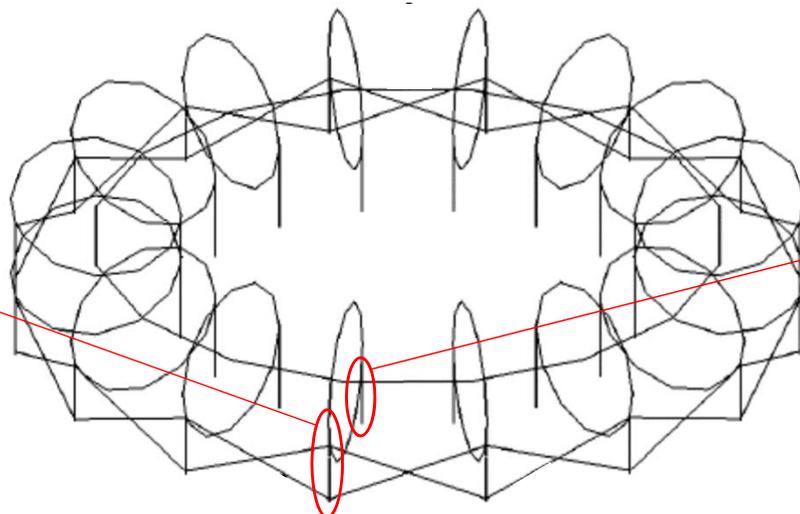
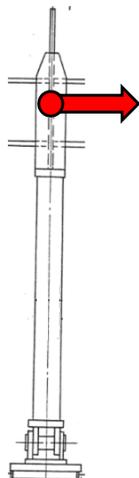


震災後20年(2031年)までに、PCV水位低下による耐震性向上を図る。

主要変形箇所拡大イメージ

主要変形部位：内側コラムサポート

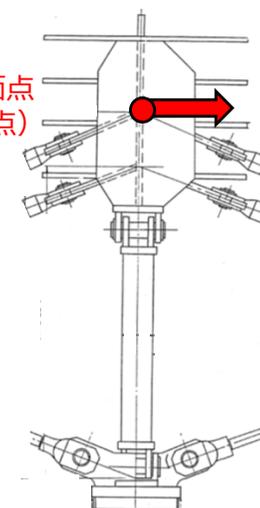
変位量評価点
(S/C接合点)



S/C弾塑性解析FEMモデル

主要変形部位：外側コラムサポート

変位量評価点
(S/C接合点)



■ 原子炉建屋滞留水への流入評価について

- 地震前後の1～3号機原子炉建屋滞留水の水位トレンドを評価し、PCV水位低下に伴う漏えい水の原子炉建屋滞留水への移行の有無を確認。
- 評価は簡易評価として、滞留水移送ポンプ停止時の水位上昇の傾きから、建屋の基本面積をかけて1時間あたりの流入量換算値を計算し、①地震前、②地震後、③2/15の降雨の影響が収まった後（2/17以降）で比較して、傾向として原子炉建屋滞留水への流入量換算値に変化があったかの確認を実施。

流入量換算値 [m ³ /h] (カッコ内は地震前との差)	①地震前	②地震後	③降雨影響後（2/17以降）
【1号機】原子炉建屋	3.06	3.56 (+0.50)	3.31 (+0.25)
【2号機】原子炉建屋	6.42	5.87 (-0.55)	6.42 (±0.00)
【3号機】原子炉建屋	6.06	6.72 (+0.66)	5.96 (-0.10)

■ 評価結果について

- 【1号機】流入量換算値が②地震後で+0.50m³/hと増加し、③降雨影響後は増加量の半分程度。
- 【2号機】流入量換算値が②地震後で-0.55m³/hと減少しているが、以前より水位が上昇すると同様な傾向が確認されており、③降雨影響後で元に戻っていることから、地震前後で大きな変化はなかったものと推測（建屋地下の想定面積の誤差による）。
- 【3号機】流入量換算値が②地震後で+0.66m³/hと増加し、③降雨影響後は①地震前と比べて若干減少しているが誤差の範疇でほぼ同等と推測。

■ まとめ

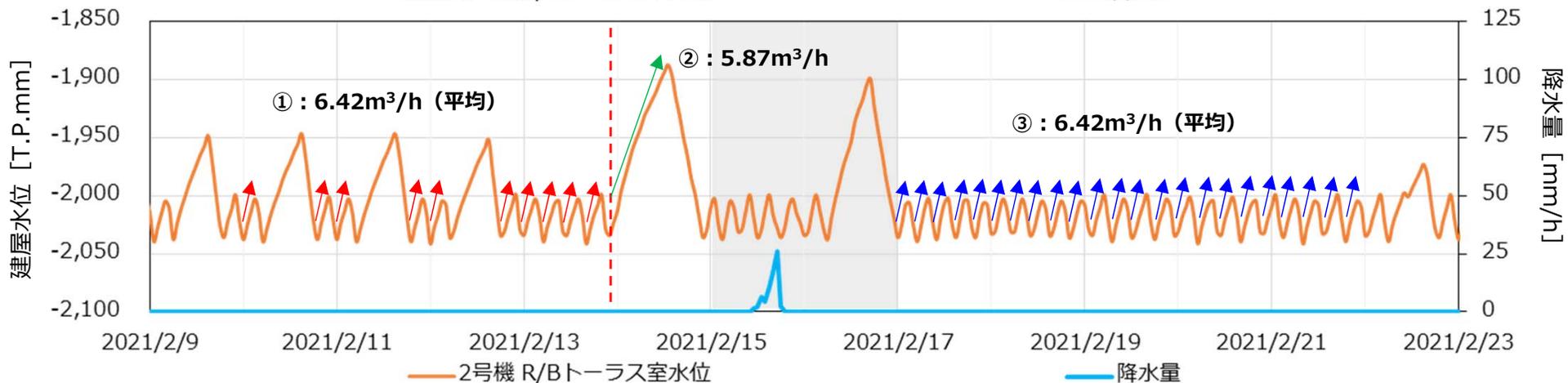
- 地震後のPCVの低下速度から、1号機で0.5m³/h程度、3号機で0.8m³/h程度で移行したと推定。
- 1、3号機の地震後に流入量換算値の増加量は、上記移行量に近いことから、PCV水位低下に伴う漏えい水は原子炉建屋滞留水へ移行したと想定。

【参考】 1～3号機原子炉建屋の滞留水水位トレンド

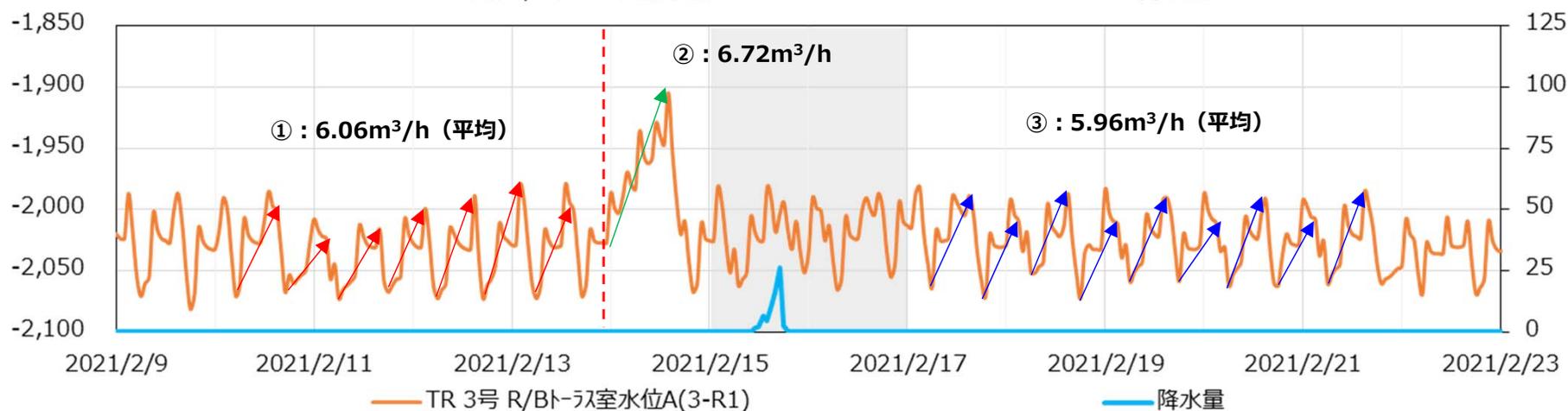
1号機



2号機

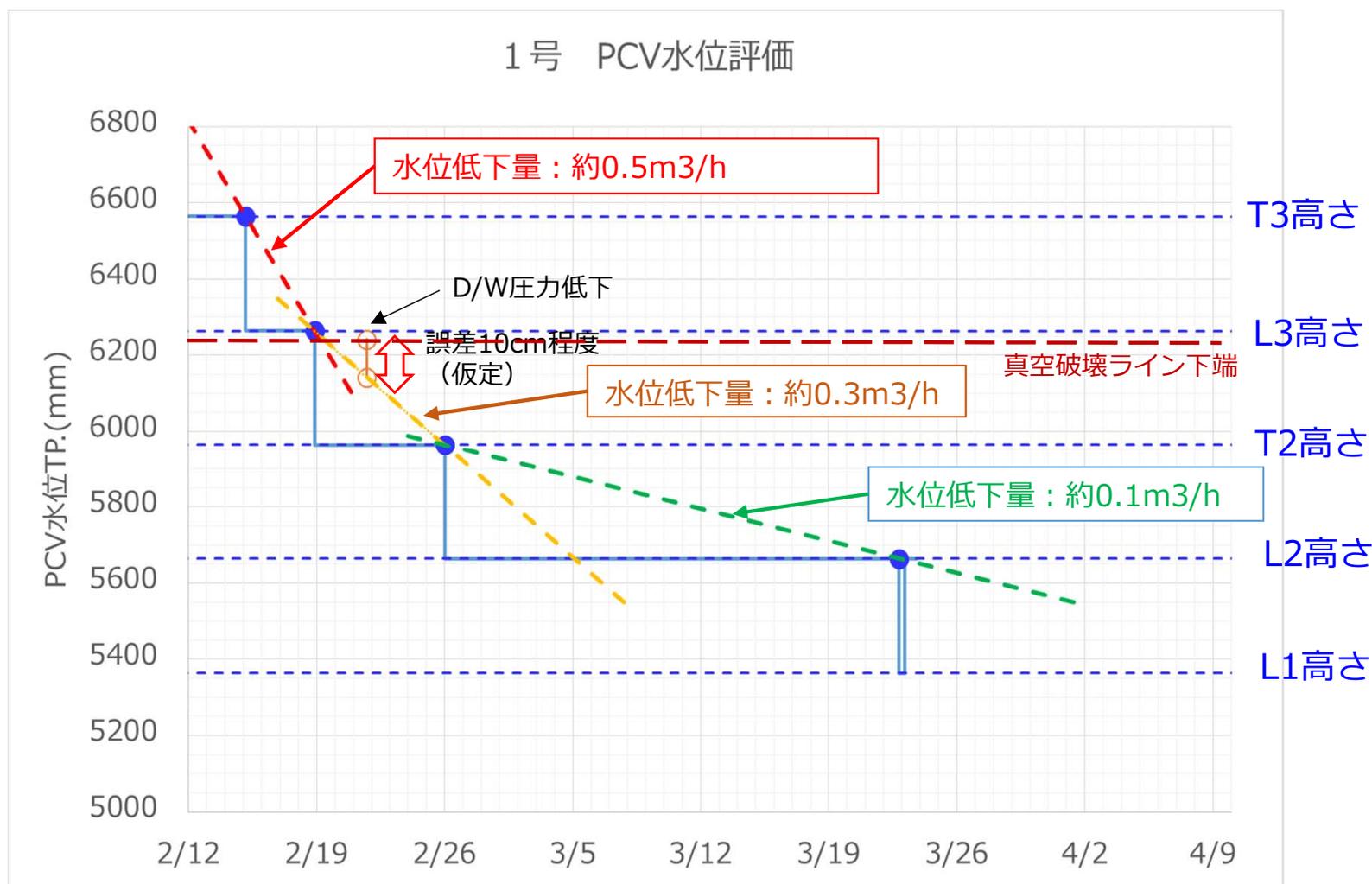


3号機



【参考】 1号機PCV水位低下量について（概算値）

- PCV水位の変化とPCVの断面積から、漏洩した水の量を簡易的に評価※1し、1時間当たりの漏洩量を概算。
- 初期のPCV水位の低下量は、約0.5m³/h※2程度と評価。

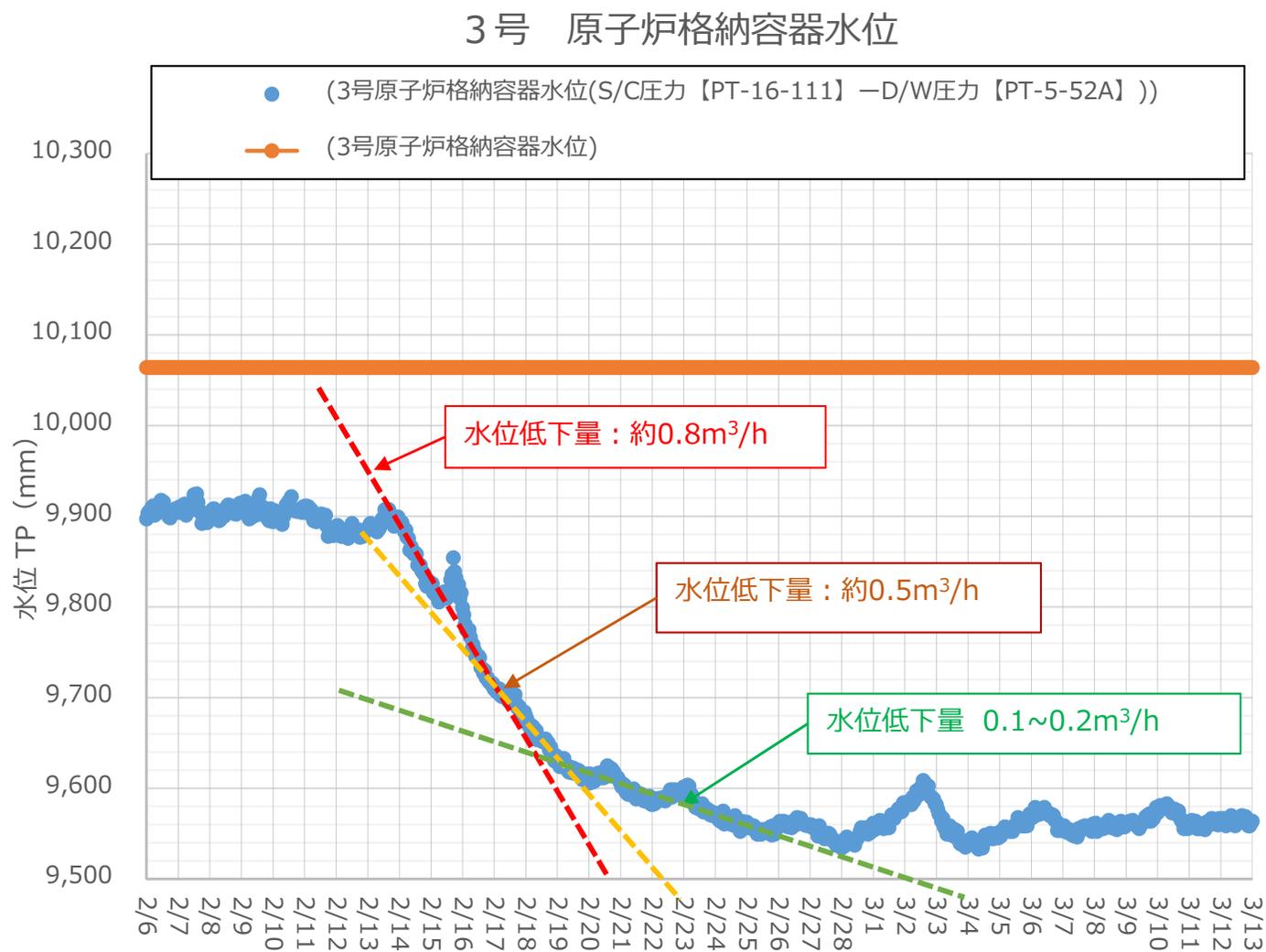


※1 PCV内の機器等は未考慮

※2 PCV水位が直線的に低下したものとして評価

【参考】 3号機PCV水位低下量について（概算値）

- PCV水位の変化とPCVの断面積から、漏洩した水の量を簡易的に評価※し、1時間当たりの漏洩量を概算。
- 初期のPCV水位の低下量は、約 $0.8\text{m}^3/\text{h}$ 程度と評価。



※ PCV内機器等は未考慮